

2003 年度

ドイツ語学科シラバス

獨協大学

～シラバスの見方～

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとに授業計画、目的、講義内容および評価方法を学生に周知することにより、受講の指針および授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

ドイツ語学科のシラバスは入学年度により2種類に分かれています。
 <2003年度入学者用>と<2002年度以前入学者用>です。
 ご自分の入学年度に従い、目次を参照してください。

シラバスの見方は以下のとおりです

適用カリキュラム
 (入学年度による)

02年度以前		ドイツ史概論	担当者	獨協 太郎	} (原則)通年科目の科目名, 担当者 春学期(前期)科目の科目名, 担当者
03年度		ドイツ史概論a	担当者	獨協 太郎	
講 議 目 的 お よ び 講 義 内 容			授 業 計 画	1 授業のポイント	} 春学期(前期)の欄
				2 以下同じ	
				3	
				.	
				.	
				.	
				.	
				.	
				.	
				.	
評 価 方 法				11	
				12	
テ キ ス 参 考 文 献					
03年度		ドイツ史概論b	担当者	獨協 太郎	} 秋学期(後期)科目の科目名, 担当者
講 議 目 的 お よ び 講 義 内 容			授 業 計 画	1 授業のポイント 以下同じ	} 秋学期(後期)の欄
				2	
				3	
				.	
				.	
				.	
				.	
				.	
				.	
				.	
評 価 方 法				11	
				12	
テ キ ス 参 考 文 献					

目次

<2003年度入学者用>

学科基礎科目

ドイツ語Ⅰa・b(総合)	各担当教員	1
ドイツ語Ⅰa・b(基礎)	各担当教員	2
ドイツ語Ⅰa・b(LL)	各担当教員	3
ドイツ語圏入門a・b	各担当教員	6

学科専門科目

「Ⅰ 言語・文学」部門		
ドイツ語学概論a・b	木内 基実	21
ドイツ文学概論a・b	渡部 重美	22
「Ⅱ 思想・芸術」部門		
ドイツ文化史概論a・b	工藤 達也	32
「Ⅲ 歴史・社会」部門		
ドイツ史概論a・b	古田 善文	46

<2002年以前入学者用>

*[]の中は2001年度入学者用科目名

学科基礎科目

ドイツ語Ⅰ(総合)	各担当教員	1
ドイツ語Ⅰ(基礎)	各担当教員	2
ドイツ語Ⅰ(LL)	各担当教員	3
ドイツ語Ⅱ(総合)	各担当教員	4
ドイツ語Ⅱ(応用)	各担当教員	5
ドイツ語圏入門	各担当教員	6
基礎演習	各担当教員	7

学科共通科目

「ドイツ語」部門		
総合ドイツ語Ⅲ	各担当教員	8
時事ドイツ語 [ドイツ語Ⅲ(会話)]	H.J.トロル	9
〃	M.鮎貝	10
〃	M.ルーデ	11
〃	R.トゥルーラー	12
時事ドイツ語 [ドイツ語Ⅲ(作文)]	H.J.トロル	13
商業ドイツ語 [ドイツ語Ⅲ(作文)]	R.ザンドロック	14
上級ドイツ語(会話)	A.リプスキ	15
〃	M.鮎貝	16
〃	R.トゥルーラー	17
上級ドイツ語(作文)	H.H.ゲートケ	18
中世ドイツ語	I.アルブレヒト	19
通訳特殊演習[通訳特殊演習Ⅰ・Ⅱ]	矢羽々 崇	20

学科専門科目

「Ⅰ 言語・文学」部門

ドイツ語学概論	木内 基実	21
ドイツ文学概論	渡部 重美	22
ドイツ語学各論	諏訪 功	23
ドイツ文学各論	酒井 府	24
ドイツ語講読(語学)Ⅰ・Ⅱ	川島 淳夫	25
〃	諏訪 功	26
〃	A.ヴェルナー	27
ドイツ語講読(文学)Ⅰ・Ⅱ	柴田 千秋	28
〃	洲崎 恵三	29
〃	関 徹雄	30
〃	田島 加奈子	31

「Ⅱ 思想・芸術」部門

ドイツ文化史概論	工藤 達也	32
ドイツの思想	松丸 壽雄	33
ドイツの音楽	近衛 秀健	34
ドイツの美術	山本 淳	35
ドイツの演劇	越部 暹	36
ドイツ思想・芸術各論	木村 佐千子	37
ドイツ語講読(思想)Ⅰ・Ⅱ	桜井 より子	38
〃	洲崎 恵三	39
〃	林部 圭一	40
〃	船戸 満之	41
ドイツ語講読(芸術)Ⅰ・Ⅱ	木村 佐千子	42
〃	工藤 達也	43
〃	本多 喜三郎	44
〃	前田 智	45

「Ⅲ 歴史・社会」部門

ドイツ史概論	古田 善文	46
ドイツの歴史	船戸 満之	47
ドイツの社会・事情	H.H.ゲートケ	48
ドイツの地誌・民俗	大串 紀代子	49
ドイツの政治・対外関係	古田 善文	50
ドイツの経済	大重 光太郎	51
ドイツの法律	市川 須美子	52
ドイツ語講読(歴史)Ⅰ・Ⅱ	飯沼 隆一	53
〃	井村 行子	54
〃	古田 善文	55
ドイツ語講読(社会)Ⅰ・Ⅱ	大串 紀代子	56
〃	永岡 敦	57
〃	林部 圭一	58
〃	I.アルブレヒト	59

02 年度以前	ドイツ語 I (総合)	担当者	各担当教員
---------	-------------	-----	-------

03 年度	ドイツ語 Ia (総合)	担当者	各担当教員
		担当者	
講義目的および講義概要	Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung; dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch. Durcharbeit von Band I der Stufen International.	授業計画	1 Band I: Lektion 1 2 Band I: Lektion 1 3 Band I: Lektion 1 4 Band I: Lektion 2 5 Band I: Lektion 2 6 Band I: Lektion 2 7 Band I: Lektion 3 8 Band I: Lektion 3 9 Band I: Lektion 3 10 Band I: Lektion 4 11 Band I: Lektion 4 12 Band I: Lektion 4
評価方法	Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Studienjahres.		
テキスト参考文献	Stufen International Band I (Klett)		

03 年度	ドイツ語 I b (総合)	担当者	各担当教員
		担当者	
講義目的および講義概要	Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung; dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch. Durcharbeit von Band I der Stufen International.	授業計画	1 Band I: Lektion 5 2 Band I: Lektion 5 3 Band I: Lektion 5 4 Band I: Lektion 5 5 Band I: Lektion 6 6 Band I: Lektion 6 7 Band I: Lektion 6 8 Band I: Lektion 6 9 Band I: Lektion 7 10 Band I: Lektion 7 11 Band I: Lektion 7 12 Band I: Lektion 7
評価方法	Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Studienjahres.		
テキスト参考文献	Stufen International Band I (Klett)		

02年度以前	ドイツ語Ⅰ（基礎）	担当者	各担当教員
--------	-----------	-----	-------

03年度	ドイツ語Ⅰa（基礎）	担当者	各担当教員
		担当者	
講義目的および講義概要	主にドイツ語文法の基礎を一通り身につけ、読む・書く・話す・聞くという言語の4つの能力の土台作りを目指します。 初めて学習する言語ですので、発音から始めて2学期で一通りドイツ語の文法事項ならびに基本的な語彙を習得します。 授業時に学ぶだけではなく、予習・復習をしっかりとしてください。語学は積み重ねですのでちょっと気を抜いてしまうとついていくのが大変です。各学期7回以上欠席した学生は期末統一試験の受験資格を失います。 辞書については授業中に推薦できる辞書を指定します。 既習クラスはネイティブ教員により別メニューの授業を行います。（統一試験は行いません。）	授業計画	1 発音
			2 発音
			3 春学期 Lektion1 Lektion8 2 課終了ごとに小テスト
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	2 課ごとの小テストと期末統一試験、出席から判断します。		
テキスト 参考 文献	中島・平尾・朝倉『練習中心 初級ドイツ文法』白水社		

03年度	ドイツ語Ⅰb（基礎）	担当者	各担当教員
		担当者	
講義目的および講義概要		授業計画	1 秋学期 Lektion9 Lektion16 2 課終了ごとに小テスト
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト 参考 文献			

02 年度以前	ドイツ語 I (LL)	担当者	各担当教員
---------	-------------	-----	-------

03 年度	ドイツ語 Ia (LL)	担当者	各担当教員
		担当者	
講義目的および講義概要	映像や音声教材を利用して、正確な発音や話す・聞く力を養います。 ビデオ教材を中心にして、各課ごとに様々なシチュエーションでの日常会話表現のパターン練習と聞き取り練習を行います。 練習教材はMDに録音して各自自宅で聞き取り練習を行います。 また正確な発音のために開発された教材で日本人が特に苦手とする発音や聞き取りを練習します。 練習が中心の授業ですので毎回の出席を重視します。	授業計画	1 春学期 Lektion1 Lektion5
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法	期末統一試験と出席、平常点。		11
テキスト参考文献	プリントを配布します。		12

03 年度	ドイツ語 Ib (LL)	担当者	各担当教員
		担当者	
講義目的および講義概要		授業計画	1 秋学期 Lektion6 Lektion10
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法			11
テキスト参考文献			12

02 年度以前	ドイツ語Ⅱ（総合）	担当者	各担当教員
---------	-----------	-----	-------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung; dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch. Durcharbeit von Band I und II der Stufen International.	授 業 計 画	1 Band I: Lektion 8
			2 Band I: Lektion 8
			3 Band I: Lektion 8
			4 Band I: Lektion 9
			5 Band I: Lektion 9
			6 Band I: Lektion 9
	Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Studienjahres.		7 Band I: Lektion 10
			8 Band I: Lektion 10
	Stufen International Band I und II (Klett)		9 Band I: Lektion 10
			10 Band II: Lektion 11
			11 Band II: Lektion 11
			12 Band II: Lektion 11
評価方法			
テキスト参考文献			

		担当者		
		担当者		
講義目的および講義概要	Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung; dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch. Durcharbeit von Band I und II der Stufen International.	授 業 計 画	1 Band II: Lektion 12	
			2 Band II: Lektion 12	
			3 Band II: Lektion 12	
			4 Band II: Lektion 12	
			5 Band II: Lektion 13	
			6 Band II: Lektion 13	
			7 Band II: Lektion 13	
			8 Band II: Lektion 13	
			9 Band II: Lektion 14	
			10 Band II: Lektion 14	
	評価方法		Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Studienjahres.	11 Band II: Lektion 14
	テキスト参考文献		Stufen International Band I und II (Klett)	12 Band II: Lektion 14

02 年度以前	ドイツ語Ⅱ（応用）	担当者	各担当教員
---------	-----------	-----	-------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	1 年次での基礎をふまえ、2 年次では残りの文法項目を最初に終え、その後に、中級ドイツ語へのステップアップを目指します。 中心となるのは読解力と作文力の養成であり、そのためには体系的な語彙力の強化も必要です。 授業時に学ぶだけではなく、予習・復習をしっかりとしてください。また、授業時には教科書、辞書、1 年次の文法教科書を必ず持参してください。 なお、春学期末試験の試験結果次第では、一部クラス替えを行います。 既習クラスはネイティブ教員による作文を中心とした授業を行います。（統一試験は行いません。）	授業計画	4 月 第 1 週: 統一復習テスト Übung macht den Meister の 17・18 課
			5 月 『ドイツ語読みかた教室』 Lektion 1 Lektion 6
			2 課ごとに小テスト
			春学期学年末 統一試験
			夏休み 宿題！
評価方法	2 課ごとの小テストと期末統一試験、出席から判断します。		秋学期 『ドイツ語読みかた教室』 Lektion 7 Lektion 12
			教科書終了後に各クラスごとに練習
テキスト参考文献	大谷弘道, ヴィズ・大谷『ドイツ語読みかた教室 中級表現練習読本』三修社 1 年次の文法教科書		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

02 年度以前	ドイツ語圏入門	担当者	各担当教員
---------	---------	-----	-------

03 年度	ドイツ語圏入門 a	担当者	各担当教員
		担当者	
講義目的および講義概要	講義の目標 ドイツ語学科に入学してきた皆さんが、これから大学で学んでいくテーマを発見し、また、それを深めるために必要な知的技術を養成することを目標とします。特に以下のことに重点をおきます。 1) ドイツ語学科の学生として知っておくべき、ドイツ語圏に関する基礎的な知識を修得する。 2) 同じく 1 学年から履修できる「ドイツ語学概論」「ドイツ文学概論」「ドイツ文化史概論」「ドイツ史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶことの全体像（いわば見取り図）を把握し、将来の専攻・テーマを選ぶ手がかりをつかむ。 3) レポートの書き方 参考文献と自分の意見の区別、また参考文献の挙げ方・引用の仕方を学ぶ。 講義概要 各担当者が、地理、言語、政治、経済、環境問題 etc. といったテーマで、基本的な講義をします。その他、一年間の講義の合間には「独検・ZD 講座」講演会やドイツ映画鑑賞会なども実施します。 なお、第 1 回目の授業で、授業内容、担当者の紹介、出席・課題図書・レポートの書き方、試験方法等、履修上の注意事項を説明しますので、必ず出席してください。	授業計画	1 第 1 回目の授業時に、本年度の講義計画表を配布します。
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	出席、レポート、および前・後期末の試験の結果に基づいて評価します。詳細は第 1 回目の授業（ガイダンス）の際に説明します。		
テキスト参考文献	2000 年度以前入学者は前期完結（2 単位）の科目です。 原則として、毎回担当者が授業レジュメ（プリント）を配布します。また、第 1 回目のガイダンス時に基本図書および課題図書文献目録を配布します。		

03 年度	ドイツ語圏入門 b	担当者	各担当教員
		担当者	
講義目的および講義概要	ドイツ語圏入門 a と同じ。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	ドイツ語圏入門 a と同じ。		
テキスト参考文献	ドイツ語圏入門 a と同じ。		

02 年度以前	基礎演習	担当者	各担当教員
---------	------	-----	-------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	1 年次の「ドイツ語圏入門」では、おもにドイツ語圏に関する基礎知識の修得とレポート執筆の技術を身につけることを目標にしていました。2 年次の「基礎演習」では、自ら情報を収集し、それを口頭で発表したり文書（レポート）としてまとめるプレゼンテーションの技術を高めることを目的にしています。 春学期では、おもにグループでの共同研究や全体やグループでの討論、ディベートなどを通して、情報検索、口頭発表の作法、討議のしかたなどの基礎を身につけます。 3 回のグループ研究では「ドイツの都市研究」は必修共通テーマで、残りの 2 回は「環境問題」、「大学をめぐる」、「グリム童話」、「第 2 次世界大戦」などから、教員と学生の相談のうえでテーマを決定します。	授業計画	1 ガイダンス
			2 自己紹介（プレゼンテーションの第 1 歩）ドイツの都市研究の準備
			3 グループ研究① ドイツの都市研究 1
	4 グループ研究① ドイツの都市研究 2		
	5 グループ研究① ドイツの都市研究 3		
	6 グループ研究② テーマ 1		
	7 グループ研究②		
	8 グループ研究②		
	9 グループ研究③ テーマ 2		
	10 グループ研究③		
	11 グループ研究③		
	12 まとめ 秋学期個人自由研究分担最終決定		
評価方法	出席（出欠・遅刻）、授業参加（討論などへの参加）、口頭発表、レポートから総合的に判断します。詳しくは第 1 回授業時に。		
テキスト参考文献	授業時に指示します。		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	春学期のうちに決定していた分担にもとづいて、秋学期は個人による自由研究発表を行います。 発表はおおよそ 20 分、質疑応答に 10 分を予定しています。発表者は、発表の遅くとも 2 週間前までに担当教員と相談しながら、発表内容を絞り込み、自分なりの問題提起→それに対する解答となるように発表をまとめ、ハンドアウトを作成してください。 聞き手も漫然と聞くのではなく、発表者の問題意識を共有しつつ、積極的に質疑応答に参加してください。	授業計画	1 前期レポート返却、講評、後期分担の再確認
			2 以下、個人自由研究発表、質疑
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	前期の記述を参考にしてください。		
テキスト参考文献	授業時に指示します。		

02 年度以前	総合ドイツ語Ⅲ	担当者	各担当教員
---------	---------	-----	-------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung; dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch. Durcharbeit von Band II der Stufen International.	授 業 計 画	1 Band II: Lektion 15
			2 Band II: Lektion 15
			3 Band II: Lektion 15
			4 Band II: Lektion 15
			5 Band II: Lektion 16
			6 Band II: Lektion 16
			7 Band II: Lektion 16
			8 Band II: Lektion 16
			9 Band II: Lektion 17
			10 Band II: Lektion 17
			11 Band II: Lektion 17
			12 Band II: Lektion 17
評価方法	Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Studienjahres.		
テキスト参考文献	Stufen International Band II (Klett)		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung; dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch. Durcharbeit von Band II der Stufen International.	授 業 計 画	1 Band II: Lektion 18
			2 Band II: Lektion 18
			3 Band II: Lektion 18
			4 Band II: Lektion 18
			5 Band II: Lektion 19
			6 Band II: Lektion 19
			7 Band II: Lektion 19
			8 Band II: Lektion 19
			9 Band II: Lektion 20
			10 Band II: Lektion 20
			11 Band II: Lektion 20
			12 Band II: Lektion 20
評価方法	Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Studienjahres.		
テキスト参考文献	Stufen International Band II (Klett)		

02 年度以前	時事ドイツ語<01 年度>ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	H. J. トロル
---------	------------------------	-----	-----------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	Nach anfänglicher Wiederholung und fundamentalen Sprechübungen wollen wir verschiedene aktuelle Themen besprechen, in nicht zu schwierigem Deutsch. Die Themenauswahl richtet sich nach dem Niveau und Interesse der Teilnehmer, ein Lehrbuch werden wir aber dennoch benutzen. Wir beginnen einfach... Regelmäßige Teilnahme ist aber nötig. 現代的なテーマをドイツ語で学ぶ。	授業計画	1 Einführung
			2 Wiederhlg. verschiedener Art
			3 Wiederholung und Aufbau
			4 Schule, Universität und Studium in Japan und Deutschland
			5 Familie und Beruf in Europa und Asien
			6 Wegbeschreibungen
			7 Tagesablauf, Termine, Einladungen
			8 Wohnungen und Wohnen
			9 Arbeitswelt
			10 alte und junge Menschen, soziale Fragen
			11 Umweltfragen
			12 End-Semestertest
評価方法			
テキスト参考文献			

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	Fortsetzung des ersten Semesters in gleicher Form im Herbstsemester...	授業計画	1 Das zweite Semester orientiert sich mehr nach dem Buch. Dazu kommt mehr Video-Arbeit und zusätzliche Materialien in Form von Kopien....
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

02 年度以前	時事ドイツ語<01 年度>ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	M. 鮎貝
---------	------------------------	-----	-------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	In diesem Kurs steht das Üben der kommunikativen Fähigkeit im Vordergrund. Es sollen sowohl das Hörverstehen als auch die vielfältigen Möglichkeiten des mündlichen Ausdrucks erprobt werden. Ziel dieser Kommunikationsübung ist das genaue Zuhören und Antworten. Angestrebt wird die Erweiterung des Vokabulars, das Erkennen und Anwenden von Satzstrukturen durch Dialoge, Kassetten, Video, Lesetexte und Hörtexte mit besonderer Beachtung von Intonation und Aussprache. Inhaltlich geht es dabei um Themen aus dem deutschen Alltag, aber auch um aktuelle Themen zum Zietgeschehen. Die Themenwahl richtet sich nach dem Interesse der Teilnehmer.	授業計画	1 Reise und Verkehr
			2 Referat. Aktuelles Thema
			3 Im Restaurant und im Hotel
	4 Referat. Aktuelles Thema		
	5 In der Stadt		
	6 Referat. Aktuelles Thema		
	7 Wetter und Naturkatastrophen		
	8 Referat. Aktuelles Thema		
	9 Geschenke und Einladung		
	10 Referat. Aktuelles Thema		
評価方法	Aktive Beteiligung am Unterricht. Test am Ende des Semesters		11 Krankheiten und Körperpflege
テキスト参考文献	Sato, Papenthin, Ito, Perz: SZENEN II Sanshusha		12 Referat. Aktuelles Thema

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	In diesem Kurs steht das Üben der kommunikativen Fähigkeit im Vordergrund. Es sollen sowohl das Hörverstehen als auch die vielfältigen Möglichkeiten des mündlichen Ausdrucks erprobt werden. Ziel dieser Kommunikationsübung ist das genaue Zuhören und Antworten. Angestrebt wird die Erweiterung des Vokabulars, das Erkennen und Anwenden von Satzstrukturen durch Dialoge, Kassetten, Video, Lesetexte und Hörtexte mit besonderer Beachtung von Intonation und Aussprache. Inhaltlich geht es dabei um Themen aus dem deutschen Alltag, aber auch um aktuelle Themen zum Zietgeschehen. Die Themenwahl richtet sich nach dem Interesse der Teilnehmer.	授業計画	1 Einführung
			2 Personenbeschreibung
			3 Referat. Aktuelles Thema
			4 Verbote und Gebote
			5 Referat. Aktuelles Thema
			6 Lebenslauf und Schulsystem
			7 Referat. Aktuelles Thema
			8 Feste und Feiertage
			9 Referat. Aktuelles Thema
			10 Interkulturelle Kommunikation
			11 Referat. Aktuelles Thema
			12 Hörtest
評価方法	Aktive Beteiligung am Unterricht. Test am Ende des Semesters		
テキスト参考文献	Sato, Papenthin, Ito, Perz: SZENEN II Sanshusha		

02 年度以前	時事ドイツ語＜0 1 年度＞ドイツ語Ⅲ（会話）	担当者	M. ルーデ
		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	Der Zweck dieses Kurses ist die Verbesserung der mündlichen Kommunikationsfähigkeit. Hierzu üben wir Konversation in Paaren (Zweiergruppen). Dabei beginnen wir mit Modell-Dialogen zu verschiedenen Themen und gehen schrittweise zu freiem Sprechen über: Zuerst werden die Paare einen gegebenen Dialog einige Male hören, lesen und schreiben. Dann übt jedes Paar diesen Dialog frei zu sprechen. Jeder Kurs-TeilnehmerIn benötigt einen Rekorder, damit sich die Paare mithilfe der Kassetten selbst korrigieren können. Natürlich hilft auch die Lehrkraft beim Verbessern von Aussprache- oder Inhaltsfehlern. Schließlich schreibt das Paar – basierend auf dem Modell-Dialog – einen eigenen Dialog oder versucht, über das gegebene Thema frei zu sprechen. Die Progression kann von Paar zu Paar unterschiedlich sein.	授業計画	1 Gespräch über eine Freundin
			2 Einladung zum Sport und zu einer Party
			3 Gespräch nach einer Geburtstagsfeier
			4 Gespräch über einen Restaurantbesuch
			5 Gespräch über das Telefonieren
			6 Wiederholung: Wochentage
			7
			8
			9
			10
評価方法	Anwesenheit, mündliche Tests und ein schriftlicher Test tragen zur Gesamtnote bei		11
テキスト参考文献	Text: Talk Deutsch 2, Heft und Kassette (ca. 2000 Yen) Sonstiges: ein Rekorder oder Player (z.B. Walkman)		12

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要		授業計画	1 Wiederholung: Adjektive
			2 Gespräch über Fußball
			3 Gespräch über die Familie
			4 Höfliche Bitten im Konjunktiv
			5 Personalpronomen Dativ
			6 Perfekt und Präteritum von haben und sein
			7
			8
			9
			10
評価方法			11
テキスト参考文献			12

02 年度以前	時事ドイツ語<01 年度>ドイツ語Ⅲ (会話)	担当者	R.トゥルーラー
		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	Die Teilnehmer werden in die Lage versetzt, sich aktiv an Gesprächen zu aktuellen Themen zu beteiligen.	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	Beurteilung der aktiven Beteiligung am Unterricht (in jeder Unterrichtseinheit), mündlicher Test zum Ende eines Semesters		
テキスト参考文献	aktuelle Artikel aus Zeitungen bzw. Zeitschriften / Internet zzgl. Handreichungen zur Erleichterung der Versprachlichung des jeweiligen Artikels/Themas		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	Die Teilnehmer werden in die Lage versetzt, sich aktiv an Gesprächen zu aktuellen Themen zu beteiligen.	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	Beurteilung der aktiven Beteiligung am Unterricht (in jeder Unterrichtseinheit), mündlicher Test zum Ende eines Semesters		
テキスト参考文献	aktuelle Artikel aus Zeitungen bzw. Zeitschriften / Internet zzgl. Handreichungen zur Erleichterung der Versprachlichung des jeweiligen Artikels/Themas		

02 年度以前	時事ドイツ語<01 年度>ドイツ語Ⅲ(作文)	担当者	H.J.トロル
---------	------------------------	-----	---------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	Wir werden uns verschiedenen Arten von Schreibübungen widmen, von einfachen persönlichen Mitteilungen bis hin zu offiziellen Briefen, vor allem aber werden wir dabei auch den grammatischen Gebrauch der Sprache vertiefen. Regelmäßige Hausaufgaben sind zu machen, um den Fortschritt zu sichern. Wir orientieren uns an einem Lehrbuch, aber auch auf Wünsche und Fragen der Studenten kann ich eingehen. Schreiben soll Spaß machen...	授業計画	1 Der Ablauf des Jahresplanes wird zu Semesterbeginn besprochen, dabei orientiere ich mich auch am Gesamtlevel der Teilnehmer. Freude und Interesse am Schreiben müssen die Teilnehmer mitbringen, regelmäßige Teilnahme ist erforderlich
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	Hausaufgaben und End-Semestertests		
テキスト参考文献	Y. Fukuda/H. Troll『表現と作文』(Verlag 白水社)		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	Fortsetzungen des Sommersemesters ab September (Herbstsemester)	授業計画	1 Fortsetzungen aus dem ersten Semester, siehe oben....
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

02 年度以前	商業ドイツ語<01 年度>ドイツ語Ⅲ (作文)	担当者	R.ザンドロック
---------	-------------------------	-----	----------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	ドイツの国情を正しく把握する能力を増す。 Wir wollen anhand der neuesten Nachrichten des ZDF lernen, Deutschland richtig zu verstehen NHK 衛星放送で毎朝放映されているドイツ第二放送の報道番組「ZDF・heute」の中から選択されているニュースを見て、最新情報についてディスカッションします。 Wir sehen die neuesten Nachrichten des ZDF und diskutieren über den Inhalt auf deutsch. Wir lernen dabei richtig hören und über neue Inhalte zu sprechen	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	平常点及び年末試験		
テキスト参考文献	収録ビデオ		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

02 年度以前	上級ドイツ語（会話）	担当者	A.リプスキ
---------	------------	-----	--------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	In diesem Kurs wollen wir verschiedene Formen der mündlichen Kommunikation trainieren. Die TeilnehmerInnen sollen sich an Gesprächen und Diskussionen zu allgemeinen Themen beteiligen, kurze Referate halten (einzeln oder in Gruppen) oder in Partnerarbeit Interviews durchführen und Rollenspiele einüben.	授 業 計 画	1 Themenauswahl
			2 Thema 1
			3
			4
			5 Thema 2
			6
			7
			8 Thema 3
			9
			10
			11
			12 口述試験
評価方法	授業への積極的参加と発表と口述試験(期末)		
テキスト 参考 文献	コピーを配布する。		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	In diesem Kurs wollen wir verschiedene Formen der mündlichen Kommunikation trainieren. Die TeilnehmerInnen sollen sich an Gesprächen und Diskussionen zu allgemeinen Themen beteiligen, kurze Referate halten (einzeln oder in Gruppen) oder in Partnerarbeit Interviews durchführen und Rollenspiele einüben.	授 業 計 画	1 Themenauswahl
			2 Thema 1
			3
			4
			5 Thema 2
			6
			7
			8 Thema 3
			9
			10
			11
			12 口述試験
評価方法	授業への積極的参加と発表と口述試験(期末)		
テキスト 参考 文献	コピーを配布する。		

02 年度以前	上級ドイツ語（会話）	担当者	M. 鮎貝
---------	------------	-----	-------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	In diesem Kurs haben die Teilnehmer Gelegenheit, ihr Hörverstehen zu verbessern durch zahlreiche kurze Hörübungen. Dabei wird in viele verschiedene Situationen eingeführt, die zum deutschen Alltagsleben gehören. Das "Gehörte" wird zugleich zur Grundlage für das Klassengespräch. Dabei werden Satzmuster geübt und die vielfältigen Möglichkeiten des mündlichen Ausdrucks erprobt. Jede der insgesamt 12 Lektionen besteht aus Lesetexten, Hör- und Sprechübungen, Dialogen sowie phonetischen Elementen und Übungen zur Wortschatzerweiterung. Unterrichtssprache ist Deutsch. Elementarkenntnisse werden vorausgesetzt.	授 業 計 画	1 Einführung
			2 Arbeitssituationen
			3 Referat. Aktuelles Thema
			4 Einkaufen in Deutschland
			5 Referat. Aktuelles Thema
			6 Volljährigkeit
			7 Referat. Aktuelles Thema
			8 Reisepläne
			9 Referat. Aktuelles Thema
			10 Interkulturelle Kommunikation
			11 Referat. Aktuelles Thema
			12 Hörtest und Zusammenfassung
評価方法			
テキスト 参考 文献			

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	In diesem Kurs haben die Teilnehmer Gelegenheit, ihr Hörverstehen zu verbessern durch zahlreiche kurze Hörübungen. Dabei wird in viele verschiedene Situationen eingeführt, die zum deutschen Alltagsleben gehören. Das "Gehörte" wird zugleich zur Grundlage für das Klassengespräch. Dabei werden Satzmuster geübt und die vielfältigen Möglichkeiten des mündlichen Ausdrucks erprobt. Jede der insgesamt 12 Lektionen besteht aus Lesetexten, Hör- und Sprechübungen, Dialogen sowie phonetischen Elementen und Übungen zur Wortschatzerweiterung. Unterrichtssprache ist Deutsch. Elementarkenntnisse werden vorausgesetzt.	授 業 計 画	1 Einführung
			2 Ausschnitte aus der Geschichte der letzten 50 Jahre
			3 Referat. Aktuelles Thema
			4 Gespräche über die Familie
			5 Referat. Aktuelles Thema
			6 Lebensgewohnheiten
			7 Referat. Aktuelles Thema
			8 Ernährung und Umweltfragen
			9 Referat. Aktuelles Thema
			10 Interkulturelle Kommunikation
			11 Referat. Aktuelles Thema
			12 Hörtest und Zusammenfassung
評価方法			
テキスト 参考 文献			

02 年度以前	上級ドイツ語（会話）	担当者	R.トゥルーラー
		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	Verbesserung/Festigung der Sprechfähigkeit durch Erlernen und Verwenden von auf vielfältige Situationen übertragbarer Redemittel	授業計画	1 Auswahl aus Themen wie z.B.:
			2 Arbeit und Freizeit
			3 Familie
			4 Feste
			5 Schule
			6 Essen und Trinken
			7 etc.
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	Beurteilung der aktiven Beteiligung am Unterricht (in jeder Unterrichtseinheit), mündlicher Test zum Ende eines Semesters		
テキスト 参考 文献	in der Regel Handreichungen (z.B. Auszüge aus aktuellen Lehrmaterialien)		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	Verbesserung/Festigung der Sprechfähigkeit durch Erlernen und Verwenden von auf vielfältige Situationen übertragbarer Redemittel	授業計画	1 Auswahl aus Themen wie z.B.:
			2 Film
			3 Reisen
			4 Musik
			5 Sport
			6 Mode
			7 etc.
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	Beurteilung der aktiven Beteiligung am Unterricht (in jeder Unterrichtseinheit), mündlicher Test zum Ende eines Semesters		
テキスト 参考 文献	in der Regel Handreichungen (z.B. Auszüge aus aktuellen Lehrmaterialien)		

02 年度以前	上級ドイツ語 (作文)	担当者	H.H.ゲートケ
---------	-------------	-----	----------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	In diesem Unterricht soll gelernt und geübt werden, wie man sich schriftlich mitteilt und ausdrückt, wie man Material sammelt und ordnet, wie man ein Konzept und eine Gliederung erstellt, so daß der Leser der Absicht und dem Gedankengang des Verfassers ohne Mißverständnis folgen kann. Es werden verschiedene Arten des schriftlichen Ausdrucks behandelt, vom Lebenslauf und Protokoll über den Erlebnisbericht und die Nacherzählung zum Problemausfastz. In diesem Kurs werden keine Übersetzungen gemacht, sondern jeder Teilnehmer muß als Hausarbeit auf deutsch eigene Texte zu jedem Genre verfassen. Die Anleitung zur Methodik erfolgt während des Unterrichts. Dies ist eine sehr arbeitsintensive Veranstaltung, und regelmäßige Teilnahme sowie aktive Mitarbeit sind unbedingt erforderlich.	授 業 計 画	1 Einführung
			2 Briefe: persönlich/privat
			3 Briefe: offiziell/formal
			4 Lebensläufe: in Textform
			5 Lebensläufe: tabellarisch
			6 Bewerbungsschreiben: Stellungsuche
			7 Bewerbungsschreiben: Stipendien etc.
			8 Protokolle: Verlaufs-, Ergebnisprotokoll
			9 Bildbeschreibung: Karikatur, Comic
			10 Bericht über Ereignisse, Vorgänge
評価方法	Die Summe aller Hausarbeiten ist die Grundlage für die Endzensur		11 Erlebnisschilderung
テキスト参考文献	Wenn erforderlich, werden Kopien ausgeteilt		12 Bestandsaufnahme des 1. Semesters

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	In diesem Unterricht soll gelernt und geübt werden, wie man sich schriftlich mitteilt und ausdrückt, wie man Material sammelt und ordnet, wie man ein Konzept und eine Gliederung erstellt, so daß der Leser der Absicht und dem Gedankengang des Verfassers ohne Mißverständnis folgen kann. Es werden verschiedene Arten des schriftlichen Ausdrucks behandelt, vom Lebenslauf und Protokoll über den Erlebnisbericht und die Nacherzählung zum Problemausfastz. In diesem Kurs werden keine Übersetzungen gemacht, sondern jeder Teilnehmer muß als Hausarbeit auf deutsch eigene Texte zu jedem Genre verfassen. Die Anleitung zur Methodik erfolgt während des Unterrichts. Dies ist eine sehr arbeitsintensive Veranstaltung, und regelmäßige Teilnahme sowie aktive Mitarbeit sind unbedingt erforderlich.	授 業 計 画	1 Einführung in das 2. Semester
			2 Charakteristik
			3 Nacherzählung
			4 Zusammenfassung (Resumée)
			5 Begriffsbestimmung (Definition)
			6 Problemaufsatz: Konzept/Gliederung
			7 Problemaufsatz: Pro/Contra (These-Anti-Synthese)
			8 Materialsammlung, -ordnung, Zitierweise
			9 Erörterung
			10 Textanalyse
評価方法	Die Summe aller Hausarbeiten ist die Grundlage für die Endzensur		11 Facharbeit (wissenschaftliche Abhandlung)
テキスト参考文献	Wenn erforderlich, werden Kopien ausgeteilt		12 Bestandsaufnahme des 2. Semesters

02 年度以前	中世ドイツ語	担当者	I.アルブレヒト
---------	--------	-----	----------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	Nibelungenlied, Tristan und Isolde, Parzival... als mittelhochdeutsch bezeichnet man die deutschsprachigen Texte ungefähr der Zeit des 12. bis 14. Jahrhunderts, der ersten Blütezeit der deutschsprachigen Literatur. Es sind viele interessante, komische, humorvolle und berührende Texte erhalten, die uns Einblick geben in das Denken und Leben und die Träume der mittelalterlichen Menschen. Solche Texte im Original zu lesen ist reizvoll und gar nicht so schwierig. Grammatik und Rechtschreibung waren nicht so kompliziert und geregelt wie im heutigen Deutsch.	授業計画	1. Was ist MHD?
			2. Wie unterscheidet sich MHD von der Gegenwartssprache?
			3. 4 bis 5 Unterrichtseinheiten: die ritterlich-höfische Welt (Wolfram von
			4. Eschenbach <i>Parzival</i> , Hartmann von Aue <i>Iwein</i> , Erek)
			5
			6
			7
			8. 3 bis 4 Unterrichtseinheiten: die bäuerliche Welt (Wernher der Gartenaere
			9. Helmbrecht, Wittenwiler <i>Der Ring</i>)
			10
			11
			12
評価方法	Regelmäßige Teilnahme und aktive Mitarbeit. Kein Test, am Ende des Studienjahres schriftliche Wiederholungsfragen		
テキスト参考文献	Kopien, werden in der ersten Stunde verteilt		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	Die erfolgreiche Teilnahme an MHD (1. Semester) ist Voraussetzung für das 2. Semester!	授業計画	1. 3 Unterrichtseinheiten: (Nibelungenlied)
			2
			3
			4. 2 bis 3 Unterrichtseinheiten: Minnesang (Walther von der Vogelweide)
			5
			6. 4 bis 5 Unterrichtseinheiten: Gebrauchstexte (Recht, Medizin,
			7. Kochrezepte, Verhalten bei Tisch)
			8
			9
			10
			11. 2 Unterrichtseinheiten: wissenschaftliche Texte
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

02 年度以前	通訳特殊演習<01 年度>通訳特殊演習Ⅰ・Ⅱ	担当者	矢羽々崇
---------	------------------------	-----	------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	レベルとして、少なくとも ZD (Zertifikat Deutsch) 以上を前提とします。希望者に対して、4 月第 1 週の開講時間にⅠ・Ⅱともに試験を行い、15 名程度を選抜します。結果は 2, 3 日後に発表します。 春学期の演習Ⅰでは、おもに日独青少年スポーツ交流で実際に行われたスピーチ原稿などをもとに、サイトトランスレーション（逐次通訳）の練習をします。 その他、簡単なフレーズや単語をすばやく翻訳するレスポンス練習、文をそのまま繰り返すエコー練習、同じスピードでたどるシャドウイングなどの練習を行います。 下の秋学期（Ⅱ）の説明も参照してください。	授業計画	1 選抜試験（Ⅰ・Ⅱとも）
			2 参加者のレベルを考慮しながら、この週に具体的な授業計画を紹介します。
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	出席はもちろん、授業参加およびレポート。欠席が 3 回を越えた場合は評価の対象とはなりません。		
テキスト参考文献	授業中に指示します。		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	秋学期（Ⅱ）では、スポーツ交流でのテキストの他、獨協大学での式典でのドイツ大使館などの来賓によるスピーチなどを取り上げつつ、通訳としてのスキルアップ、それ以上に、今後の訓練のための方法の基礎を身につけます。 通訳として必要な能力のうち、特に 3 点をあげておきます。 1) 言語能力。ドイツ語力はもちろん、日本語能力が何よりも重要です。またドイツ語も、学生同士で使うレベルのドイツ語だけでなく、TPO に応じたドイツ語の使い分けが必要です。 2) 背景知識。ドイツ語圏や日本の歴史、文化、習慣などについての幅広い理解。 3) 社会人としての常識。遅刻や欠席を当たり前と考えていては社会人として失格です。	授業計画	1 オリエンテーション（参加者のレベルに考慮しながら、具体的な授業計画を紹介します。）
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	春学期（Ⅰ）の記述を参照。		
テキスト参考文献	授業中に指示します。		

02 年度以前	ドイツ語学概論	担当者	木内基実
---------	---------	-----	------

03 年度	ドイツ語学概論 a	担当者	木内基実
		担当者	
講義目的および講義概要	文法の授業とは異なった視点から、ドイツ語の特徴を考える。話しを聞いているだけの講義科目ではなく、辞書を使って多くの練習問題を解く事によって自然にドイツ語の特徴が分かる様に工夫するつもり。 必ず辞書を持参すること。辞書はこの授業では基本資料である。	授業計画	1 名詞の性
			2 名詞の数
			3 名詞の格
			4 冠詞
			5 代名詞
			6 動詞（1）
			7 動詞（2）
			8 時制
			9 不定詞
			10 前綴り
			11 アップラウト
			12 絶対比較級
評価方法	数回の小テストによる。		
テキスト 参考 文献	資料を配付する。		

03 年度	ドイツ語学概論 b	担当者	木内基実
		担当者	
講義目的および講義概要		授業計画	1 語順
			2 作為動詞と縮小動詞
			3 間投詞
			4 ウムラウト
			5 縮約
			6 動詞の格支配
			7 英語ードイツ語の音韻対応
			8 動名詞
			9 派生語
			10 合成語
			11 略語と数詞
			12 一致
評価方法			
テキスト 参考 文献			

02 年度以前	ドイツ文学概論	担当者	渡部重美
---------	---------	-----	------

03 年度	ドイツ文学概論 a	担当者	渡部重美
		担当者	
講義目的および講義概要	前半 7 回を使って、Märchen という言葉の意味の変遷をたどりながら、主に 18 世紀から 20 世紀にかけてのドイツ文学史を概観します。後半 3 回では、「Märchen を読む」と言うタイトルのもと、文学テキストの読み方/楽しみ方を学びます。	授業計画	1 オリエンテーション：授業の進め方、評価方法等の説明。 2 Märchen とは何か？ (1) 3 Märchen とは何か？ (2) ---グリム以前のドイツとドイツ文学。 4 Märchen とは何か？ (3) ---グリムの時代のドイツとドイツ文学 (1)。 5 Märchen とは何か？ (4) ---グリムの時代のドイツとドイツ文学 (2)。 6 Märchen とは何か？ (5) ---グリムの時代のドイツとドイツ文学 (3)。 7 Märchen とは何か？ (6) ---グリム以降のドイツとドイツ文学 (1)。 8 Märchen とは何か？ (7) ---グリム以降のドイツとドイツ文学 (2)。 9 Märchen を読む／文学テキストの読み方 (1) 10 Märchen を読む／文学テキストの読み方 (2) 11 Märchen を読む／文学テキストの読み方 (3) 12 予備日
評価方法	筆記試験によって、授業内容についての理解度をテストします。		
テキスト参考文献	授業中にその都度指示します。.		

03 年度	ドイツ文学概論 b	担当者	渡部重美
		担当者	
講義目的および講義概要	ドイツの詩、小説、ドラマについて、具体的な作品をいろいろな観点から読み込み、文学テキストの味わい方を学びます。ドイツ文学概論 a の応用編という位置づけです。	授業計画	1 前期試験の返却と講評。 2 ドイツの詩 (1) 3 ドイツの詩 (2) 4 ドイツの詩 (3) 5 ドイツの小説 (1) 6 ドイツの小説 (2) 7 ドイツの小説 (3) 8 ドイツの小説 (4) 9 ドイツのドラマ (1) 10 ドイツのドラマ (2) 11 ドイツのドラマ (3) 12 予備日
評価方法	授業で取り扱ったテーマについて、レポート (原稿用紙 5 枚) を書いていただきます。		
テキスト参考文献	授業中にその都度指示します。		

02 年度以前	ドイツ語学各論	担当者	諏訪 功
---------	---------	-----	------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	文体の諸相 現代ドイツ語のさまざまな文体に触れ、それを日本語でどのように再現するかを考えてゆく。毎回、ひとつの短文を取り上げ、日本語訳を作り上げたあと、そこにひそむ個別の問題と一般的な問題を考察する。 取り上げる短文はあらかじめ提示しておく。受講者はかならず事前に自分の日本語訳を作り上げ、ワープロ印字し(A4版横書きダブルスペース。1行目に学籍番号と氏名を明記)、オリジナルを手元に置き、コピーを毎回提出すること。	授業計画	1 総論
			2 例文の検討
			3 回以降、23回まで、例文の検討。24回にまとめ。
テキスト参考文献	『レトリック小辞典』脇阪 豊・川島淳夫・高橋由美子編著 同学社 『レトリック辞典』野内良三著 国書刊行会 『翻訳論における誤った設問と正しい設問』コセリウ言語学選集4所収 三修社		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

02 年度以前	ドイツ文学各論	担当者	酒井府
---------	---------	-----	-----

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	ドイツ文学を学ぶ上で根本的な基礎知識として知っておきたい事には、ドイツの文化を理解する上でも欠くことの出来ないギリシャ・ローマ神話の世界、新旧約聖書の内容、北欧神話の世界と並んで、中高ドイツ語による文学であろう。ドイツ語学科の授業である故、授業は後者二つの事に搾らざるを得ないであろう。従って授業のテーマは中高ドイツ語による文学となり、その知識を与えることにより、ドイツ文学理解の礎を与える事を目的とする。しかし全てを取り上げるわけにも行かないので、前期と後期に分けて以下のような。	授業計画	1 “Das Nibelungenlied” 誕生とその背景
			2 その素材の範囲と歴史的事実
			3 その素材の範囲と歴史的事実と内容紹介
			4 内容紹介
			5 Wolfram von Eschenbach の“Parzival” 誕生とその背景
			6 その形式とアーサー王伝説
			7 その形式とアーサー王伝説、及び内容紹介
			8 内容紹介
			9 Hartmann von Aue とその作品
			10 „Erec” と “Iwein” とアーサー王伝説
			11 „Erec” の内容紹介
			12 内容紹介
評価方法	期末試験と出席による。		
テキスト参考文献	その都度指摘する。		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	前期の場合と同文	授業計画	1 „Grêgôrius” と聖徒伝説
			2 Grêgôrius” と聖徒伝説、及び内容紹介
			3 内容紹介
			4 „Der arme Heinrich” とその罪
			5 „Der arme Heinrich” とその罪、及び内容紹介
			6 内容紹介
			7 „Iwein” とその背景
			8 „Iwein” とその背景、及び内容紹介
			9 内容紹介
			10 Gottfried von Straßburg に就いて
			11 Gottfried von Straßburg と “Tristan”
			12 内容紹介
評価方法	期末試験と出席による。		
テキスト参考文献	その都度指摘する。		

02 年度以前	ドイツ語講読（語学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	川島淳夫
---------	---------------	-----	------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	昨年に引き続き、ドイツ語学入門のためのドイツ語テキストを読む。教材はドイツの大学生のために書かれているので、日本の学生には分量が多すぎるが、適宜選択してコピーし、ドイツ語学の全貌が垣間見られるよう配慮する。春学期では、音韻論と統語論に関する項目を取り上げて、それぞれの分野において問題となる中心的概念の把握を目的とする。例えば、音韻論では「音素」の概念的展開、統語論では「文の構造」について解説・論評する。秋学期では、意味論と実用論を取り上げる。意味論では「意味素性」の問題を扱い、実用論では「言行為理論」に基づく会話分析にも言及する。	授業計画	1 第3章音韻論を読む。
			2 同上
			3 同上
			4 同上
			5 同上
			6 同上
			7 第4章統語論を読む。
			8 同上
			9 同上
			10 同上
			11 同上
			12 同上
評価方法	学生の授業に対する貢献度および学期末試験によって評価する。		
テキスト参考文献	Jörg Meibauer: Einführung in die germanistische Linguistik. Stuttgart: Metzler 2002.		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	春学期を受けて秋学期においては、意味論と実用論の項目を読む。	授業計画	1 第5章意味論を読む。
			2 同上
			3 同上
			4 同上
			5 同上
			6 同上
			7 第6章実用論を読む。
			8 同上
			9 同上
			10 同上
			11 同上
			12 同上
評価方法	春学期と同じ。		
テキスト参考文献	春学期と同じ。		

02 年度以前	ドイツ語講読（語学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	諏訪 功
---------	---------------	-----	------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	単行本、雑誌などから、ドイツ語学に関する論文を選んで講読する。第1回の時間に、いくつかの論文を提示し、講読の順序を決定する。平易で一般的な性格のものからはじめて、次第に難度を高めて行きたい。受講者はかならず下調べをしてくること。また内容の理解はもちろん、発音にもこだわる。	授業計画	1 導入
			2 から23までは講読。24回めにまとめと展望
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	前期：筆記試験+平常点 後期：前期と同じ		
テキスト参考文献			

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

02 年度以前	ドイツ語講読（語学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	A.ヴェルナー
		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	Es sollen leichte deutsche Texte über die deutsche Sprache gelesen werden. Da es leichte, kurze, gut verständliche Texte sind, soll in einem Gespräch über den Text im Unterricht der Inhalt verstanden und vertieft werden. Wichtig ist ein Interesse an den Eigenarten der deutschen Sprache und Bereitschaft zu aktiver Mitarbeit. Die Sprache im Unterricht ist im Prinzip Deutsch. Die Texte sind aus: Legros: Was die Wörter erzählen, Lödige: Ketchup, Jeans und Haribo, Stiberc: Sauerkraut, Weltschmerz, Kindergarten, und andere.	授業計画	1 Alltagswörter
			2
			3
			4
			5 Wortspaltereien
			6
			7
			8
			9 Baukasten Sprache
			10
			11
			12
評価方法	Report		
テキスト参考文献	Kopien (werden ausgegeben)		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	Es sollen leichte deutsche Texte über die deutsche Sprache gelesen werden. Da es leichte, kurze, gut verständliche Texte sind, soll in einem Gespräch über den Text im Unterricht der Inhalt verstanden und vertieft werden. Wichtig ist ein Interesse an den Eigenarten der deutschen Sprache und Bereitschaft zu aktiver Mitarbeit. Die Sprache im Unterricht ist im Prinzip Deutsch. Die Texte sind aus: Legros: Was die Wörter erzählen, Lödige: Ketchup, Jeans und Haribo, Stiberc: Sauerkraut, Weltschmerz, Kindergarten, und andere.	授業計画	1 Eine junge Sprache
			2
			3 Satzbau
			4
			5
			6 Begriff
			7
			8
			9
			10 Umlaut
			11
			12
評価方法	Report		
テキスト参考文献	Kopien (werden ausgegeben)		

02 年度以前	ドイツ語講読（文学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	柴田千秋
---------	---------------	-----	------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	「前期」 既修の文法知識を基礎に、比較的容易な文章の文学作品を訳読し、更に、ここに描かれた人間像から「宿命」といった問題を考えるきっかけを見つけられれば一層の成果を見る。そのためにも、日頃の予習や味読に心掛けるよう望みたい。またその一助になるよう随時補説、解説をするつもりである。	授業計画	1 進捗状態により調整しながら行う
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	出席状況、学習態度、定期試験等の総合評価		
テキスト 参考 文献	プリント教材		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	「後期」 「前期」と同様である	授業計画	1 進捗状態により調整しながら行う
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	出席状況、学習態度、定期試験等の総合評価		
テキスト 参考 文献	プリント教材		

02 年度以前	ドイツ語講読（文学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	洲崎恵三
---------	---------------	-----	------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	ドイツ語読解力を養成しつつ、現代文学の森へ分け入る。トーマス・マン文学入門として、最晩年の『日記』を読む。 『マン家の人々』、『魔の山』、『ヴェネツィアに死す』、『ファウストゥス博士』などの映像も参考に見る。 ローマへの旅、ピーウス12世との謁見。タオルミーナ（シチーリア）、フィエーソレ（フィレンツェ近郊）など、イタリア旅行部分が一つの中心となる。 評価方法： 日常：各自の発表（発音と和訳と文法）を毎時間評価。1学期に少なくとも2回以上みずから手をあげて発表して下さい。日常の発表がなければ評価しません。 前期：各自の訳を提出。 後期：筆記試験、辞書持ち込みで、速読力、全体の把握力を評価。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献	Thomas Mann: Tagebücher 1953-1955. Fischer Verlag, 1955 テキストはコピーする。		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	ドイツ語読解力を養成しつつ、現代文学の森へ分け入る。トーマス・マン文学入門として、最晩年の『日記』を読む。 『マン家の人々』、『魔の山』、『ヴェネツィアに死す』、『ファウストゥス博士』などの映像も参考に見る。 ローマへの旅、ピーウス12世との謁見。タオルミーナ（シチーリア）、フィエーソレ（フィレンツェ近郊）など、イタリア旅行部分が一つの中心となる。 評価方法： 日常：各自の発表（発音と和訳と文法）を毎時間評価。1学期に少なくとも2回以上みずから手をあげて発表して下さい。日常の発表がなければ評価しません。 前期：各自の訳を提出。 後期：筆記試験、辞書持ち込みで、速読力、全体の把握力を評価。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献	Thomas Mann: Tagebücher 1953-1955. Fischer Verlag, 1955 テキストはコピーする。		

02 年度以前	ドイツ語講読（文学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	関徹雄
---------	---------------	-----	-----

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	H. ヘッセの第二次大戦後の書簡から数篇を読む。 ヘッセの若い頃の思い出から、戦後の世界情勢についてのヘッセの観点が書かれているので、講義においては作家ヘッセの責任ある人間観、世界観に触れることを目的とする。	授業計画	1. An einen jungen Künstler
			2 同上
			3 同上
			4. An einen “einfachen Mann aus dem arbeitenden Volk”
			5 同上
			6 同上
			7. An Thomas Mann
			8 同上
			9. An André Gide
			10. An einem Schüler
評価方法	試験による。テキストの内容について解釈、説明を要求する。辞書を持参してもよい。		11. Glückwunsch für Suhrkamp
			12 同上
テキスト参考文献	Hermann Hesse: <i>An einen jungen Künstler</i> コピーして配付する。参考文献は随時指示		

		担当者		
		担当者		
講義目的および講義概要	Fritz Strich のエッセイ <i>Thomas Mann</i> をテキストとして講義形式で講読する。ノーベル文学賞を授与された頃のトーマス・マンの作家としての特徴を論じたエッセイであるが、本文にもある通り「トーマス・マンを語ることは時代を語る」ことであり、第一次大戦後の文明にたいし、ナチス台頭直前、トーマス・マンがドイツの精神文化擁護のために、如何に悩み、寄与したかを講じることとする。	授業計画	1 時代にたいする発言と共同体の良心	
			2 同上	
			3 教養小説の意味と精神の時代	
			4 同上	
			5 生への意志対文明	
			6 同上	
			7 市民と芸術家	
			8 同上	
			9 同上	
			10 ドイツ市民性とトーマス・マンの美学	
	評価方法		試験による。内容は論の積重ねであるから欠席しないこと。テキストの内容について解釈、説明を要求する。辞書を持参してもよい。	11 同上
	テキスト参考文献		Fritz Strich: <i>Thomas Mann</i> コピーして配付する。参考文献は随時指示	12 同上

02 年度以前	ドイツ語講読（文学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	田島加奈子
---------	---------------	-----	-------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	現代ドイツ文学テキストを使って、読解力を養うことを目的とする。 最初のうちは特に文法事項を確認しながら進めたいと思う。 テキストは、Bernt von Heiseler の"Apollonia"で、少年時代を扱った自伝的要素のある作品である。 参加者にどういう作品か知ってもらうのと文法的にどういう点が難しいのか知るために、最初の時間にテスト形式で(テストではない)書いてもらいたい。そのため必ず辞書を持ってきてほしい。(最初の日にはプリントを配布)	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法	期末に筆記試験		11
テキスト参考文献	Bernt von Heiseler "Apollonia" (三修社)		12

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	現代ドイツ文学テキストを使って、読解力を養うことを目的とする。 最初のうちは特に文法事項を確認しながら進めたいと思う。 テキストは、Bernt von Heiseler の"Apollonia"で、少年時代を扱った自伝的要素のある作品である。 参加者にどういう作品か知ってもらうのと文法的にどういう点が難しいのか知るために、最初の時間にテスト形式で(テストではない)書いてもらいたい。そのため必ず辞書を持ってきてほしい。(最初の日にはプリントを配布)	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法	期末に筆記試験		11
テキスト参考文献	Bernt von Heiseler "Apollonia" (三修社)		12

02 年度以前	ドイツ文化史概論	担当者	工藤達也
---------	----------	-----	------

03 年度	ドイツ文化史概論 a	担当者	工藤達也
		担当者	
講義目的および講義概要	講義目的：これからドイツ語圏の文化や社会について学んでいこうという学生に、基本的な概念や歴史的事象を説明していく。特にドイツ的なものを扱うのみならず、西欧の歴史における文化現象をも含めて包括的な知識を獲る。本講義が、自分のテーマを見つける上での、あるいは深める上での、何らかの刺激になればと願っている。 講義概要：ドイツ語圏の文化について、一般的な通史の区分にそって説明していく。特にこれから大学で研究していく上で必須の概念については、重点的に説明する。 また、ドイツ語圏の美術や音楽、そして映画などの紹介をするときに、視聴覚教材を用いたいと思っている。	授業計画	1 この講義についての説明
			2 導入：「ドイツ的なもの」とはなにか？
			3 中世以前の文化と中世文化
			4 宗教改革の時代
			5 30 年戦争とバロック文化
			6 啓蒙の時代 I
			7 啓蒙の時代 II
			8 啓蒙の時代 III
			9 フランス革命とドイツ観念論 I
			10 フランス革命とドイツ観念論 II
			11 ナポレオンとナショナリズム
			12 (予備日)
評価方法	期末試験（出席も加味する可能性がある）。		
テキスト参考文献	毎回プリントを配布する		

03 年度	ドイツ文化史概論 b	担当者	工藤達也
		担当者	
講義目的および講義概要	講義目的 前期に引き続き、これからドイツ語圏の文化や社会について学んでいこうという学生に、基本的な概念や歴史的事象を説明していく。 講義概要 前期の講義で得た知識を前提にして講義を進めていくので、前期を履修した上で講義に参加することが望ましい。	授業計画	1 講義の説明・ドイツ・ロマン派について I
			2 ドイツ・ロマン派について II
			3 芸術時代の終焉と革命の時代(ハイネとマルクス)
			4 プルジョアの時代と反時代的考察（ニーチェ）
			5 モダニズム I
			6 モダニズム II
			7 第一次世界大戦と文明批判（フロイトなど）
			8 ヴァイマル文化と批判理論 I
			9 ヴァイマル文化と批判理論 II
			10 ナチズムの時代と亡命者たち
			11 戦後ドイツの知的歴史
			12. (予備日)
評価方法	期末試験（出席も加味する可能性がある）。		
テキスト参考文献	毎回プリントを配布する		

02 年度以前	ドイツの思想	担当者	松丸 壽雄
---------	--------	-----	-------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	ドイツ語で書かれたテキストを実際に読みながら、ドイツの思想に触れ、自分勝手ではなく、客観的に論証し得る仕方で、ものの考え方を学ぶ。 Jostein Gaarder の" <i>Sofies Welt</i> "をテキストにして、それを読みながら、哲学とは何かを学び、さらに現実の世界に起る諸問題を考える手がかりを得るようにする。従って、単なるテキストの解釈だけでなく、ドイツの思想家の考え方を学ぶことを通して現実の諸問題を分析し、みずから答えを探ることをするように努める。これを遂行するためには、一緒に考える態度が求められる。今年は Freud と unsere eigene Zeit の章にある思想を中心に学ぶ。人数次第だが、演習形式をとる予定である。	授業計画	1 概要説明
			2 Freud (1)
			3 Freud (2)
			4 Freud (3)
			5 Freud (4)
			6 Freud (5)
			7 Diskussion
			8 Jung (1)
			9 Jung (2)
			10 Jung (3)
			11 Jung (4)
			12 Diskussion
評価方法	翻訳と出席とレポートの内容評価		
テキスト参考文献	Jostein Gaarder: <i>Sofies Welt</i> (ISBN: 3-446-17347-1 oder 3-423-62001-3)		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	ドイツ語で書かれたテキストを実際に読みながら、ドイツの思想に触れ、自分勝手ではなく、客観的に論証し得る仕方で、ものの考え方を学ぶ。 Jostein Gaarder の" <i>Sofies Welt</i> "をテキストにして、それを読みながら、哲学とは何かを学び、さらに現実の世界に起る諸問題を考える手がかりを得るようにする。従って、単なるテキストの解釈だけでなく、ドイツの思想家の考え方を学ぶことを通して現実の諸問題を分析し、みずから答えを探ることをするように努める。これを遂行するためには、一緒に考える態度が求められる。今年は Freud と unsere eigene Zeit の章にある思想を中心に学ぶ。人数次第だが、演習形式をとる予定である。	授業計画	1 Unsere eigene Zeit (1)
			2 Unsere eigene Zeit (2)
			3 Unsere eigene Zeit (3)
			4 Unsere eigene Zeit (4)
			5 Unsere eigene Zeit (5)
			6 Diskussion
			7 Unsere eigene Zeit (6)
			8 Unsere eigene Zeit (7)
			9 Unsere eigene Zeit (8)
			10 Unsere eigene Zeit (9)
			11 Unsere eigene Zeit (10)
			12 Diskussion
評価方法	翻訳と出席とレポートの内容評価		
テキスト参考文献	Jostein Gaarder: <i>Sofies Welt</i> (ISBN: 3-446-17347-1 oder 3-423-62001-3)		

02 年度以前	ドイツの音楽	担当者	近衛 秀健
---------	--------	-----	-------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	音楽を専攻していない人達に複雑な理論を開陳しても無意味だ。音楽は地域的にそれぞれ独自に発達を遂げてきた。中世は地中海を中心とし、ドイツ周辺の中欧が脚先を浴びるのは18世紀からで、それから1950年位迄の250年が全盛期だ。この音楽を体験することは自分の人生にとって無駄にはならないだろう。ただ、本校生の聴講態度は音楽後進国日本でも最低に属している。興味のない人が音楽に親しもうとする人の耳を阻害する。まず、音に優しい環境を作ろうではないか。途中入場退場私語その他音を立てることは演奏会に従じ固く禁止します。音楽に興味ない人はこの時間をとらないでください。	授業計画	1 (前期) ドイツ及び中欧の音楽のDVDなどによる鑑賞を中心とする。バッハとその時代
			2 続き
			3 18世紀の音楽
			4 続き
			5 続き
			6 19世紀前半の音楽 ベートーヴェンなど
			7 続き
			8 続き
			9 続き
			10 19世紀後半の音楽 ブラームズなど
評価方法	君たちの耳を評価の対象とします。レポート2回		11 続き
テキスト 参考文献	随時プリント配布		12 続き

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要		授業計画	1 (後期) ヴァーグナーとその周辺
			2 続き
			3 続き
			4 続き
			5 20世紀の音楽
			6 続き
			7 続き
			8 続き
			9 教材の都合で延長することの予備
			10 同上
評価方法			11 同上
テキスト 参考文献			12 同上

02 年度以前	ドイツの美術	担当者	山本 淳
---------	--------	-----	------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	講義の目標 本講義では、以下の点を目標とする。 1) ドイツ・ルネサンス期から現代にいたるドイツ美術（造形芸術）の歴史を、社会/文化史的な側面を考慮に入れながら概観する。前期は、ルネサンス期から世紀転換期までを扱う。 2) ヨーロッパ美術史の中にドイツ美術がどう位置づけられるかを明らかにするとともに、その特質・独自性を探る。 3) ドイツ美術を代表する、できるだけ多くの作品に触れる。 講義概要 ドイツ美術（造形芸術）の特質は、形態や色彩という感覚的な媒体に、宗教的な意識や祈りを、時代精神の胎動を、また伝統的な規範や社会に対するラディカルな批判を結びつけていく点に見出すことができる。この講義では、（ヨーロッパ全体を視野に入れ）それぞれの時代の社会/文化の構造や動きと関連させながら、できるだけ多くの作品を眺め、この命題の妥当性を検証していく。 頭の中を整理するため、一応通時的な流れをとるが、つねに今日的、共時的な視点を意識しながら話を進めたい。	授業計画	1 オリエンテーション：1) 講義のねらい 2) 講義の進め方 3) 評価方法等について
			2 ドイツ・ルネサンスの芽生え：グリューネヴァルト、リーメンシュナイダー、シュトース
			3 ドイツ・ルネサンスと宗教改革：デューラー、クラーナハ（父）、ホルバイン（子）
			4 バロック・ロココ時代：30 年戦争；南ドイツ/オーストリアのカトリック宗教建築
			5 新古典主義：ヴィンケルマン『ギリシア芸術模倣論』（ダヴィッド、アングル）
			6 ドイツ・ロマン派：フリードリヒ、ルンゲ
			7 同上
			8 レアリスム：（クールベ、ミレー、ドーミエ、バルビゾン派）（万国博覧会）
			9 印象派/後期印象派：（マネ、モネ、ルノワール、ドガ/セザンヌ、ファン・ゴッホ、ゴーガン、スーラ、ロートレック）
			10 象徴主義と世紀末美術：（モロー、ルドン、ムンク、）ウィーン分離派＝クリムト、シーレ
			11 同上
			12 ユーゲントシュティール（アール・ヌーヴォー）
評価方法	講義で扱ったテーマに関するレポートにより評価。詳細は授業中に指示する。		
テキスト参考文献	テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	講義の目標 本講義では、以下の点を目標とする。 1) ドイツ・ルネサンス期から現代にいたるドイツ美術（造形芸術）の歴史を、社会/文化史的な側面を考慮に入れながら概観する。後期は、世紀転換期から現代までを扱う。 2) ヨーロッパ美術史の中にドイツ美術がどう位置づけられるかを明らかにするとともに、その特質・独自性を探る。 3) ドイツ美術を代表する、できるだけ多くの作品に触れる。 講義概要 ドイツ美術（造形芸術）の特質は、形態や色彩という感覚的な媒体に、宗教的な意識や祈りを、時代精神の胎動を、また伝統的な規範や社会に対するラディカルな批判を結びつけていく点に見出すことができる。この講義では、（ヨーロッパ全体を視野に入れ）それぞれの時代の社会/文化の構造や動きと関連させながら、できるだけ多くの作品を眺め、この命題の妥当性を検証していく。 頭の中を整理するため、一応通時的な流れをとるが、つねに今日的、共時的な視点を意識しながら話を進めたい。	授業計画	1 オリエンテーション：前期の復習と後期への導入
			2 ドイツ表現主義：「ディー・ブリュッケ」と「デア・ブラウエ・ライター」を中心に
			3 同上
			4 ダダ/シュルレアリスム：ディックス、グロス、ベックマン、ハートフィールド、エルンスト
			5 パウハウスとその周辺：（オランダ「デ・ステイル」、）グローピウス、カンディンスキー、クレー、シュレンマー等
			6 同上
			7 ナチ時代：「退廃芸術展」と「大ドイツ芸術展」、リーフェンシュタールの映画
			8 同上
			9 現代ドイツ美術：ボイス、キーフアー
			10 同上
			11 ドイツ語圏美術館めぐり
			12 まとめ
評価方法	講義で扱ったテーマに関するレポートにより評価。詳細は授業中に指示する。		
テキスト参考文献	テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。		

02 年度以前	ドイツの演劇	担当者	越部 暉
---------	--------	-----	------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	主としてドイツ現代劇を扱うが、主眼はそれらを文学史・演劇史のように＜通史的＞に語るのではなく、今日の視点から＜共時的＞に、つまり今日の哲学・社会思想史・心理学等の関心事からドイツ（や日本の）演劇の今日における存在意義を問うことにある。 受講者に、複雑な今日の社会を見通す眼力を育て、わが国の作劇術や上演術の発展にも役立つような講義を行いたい。 講義はビデオ等を多用し、演劇の視聴覚面を重視する。 前期はB. プレヒト劇とH. ミュラー劇を中心に講じるが、1. 彼らの劇作が登場する前提事項、2. 彼らの劇作の＜両面価値＞の性格、つまり時・所が替われば劇の視点がえてくる性格を強調して論じたい。	授業計画	1 オリエンテーション：成績評価方法・授業の進め方・受け方（個人と社会、自己と他者、等）。 2 参考文献の指示。ドラマとは何か。ドラマトゥルギー（作劇術）の変遷。 3 プレヒト劇の今日性、両面価値性。『三文オペラ』の紹介。 4 同上。K. ヴァイルの音楽。プレヒトの4大作品の紹介：1. 『肝っ玉おっ母さんとその子供たち』。 5 同上。『肝っ玉おっ母さんとその子供たち』のビデオ紹介。2. 『セチュアンの善人』 6 同上。3. 『コーカサスの白墨の輪』とそのビデオ紹介。 7 同上。4. 『ガリレイの生涯』とM. バフチンの両面価値理論の紹介。 8 プレヒトの＜教育劇＞の今日性（『処置』『ホラティ人とクリアティ人』等の紹介）。 9 H. ミュラーの＜教育劇＞の今日性（『モーゼ』『ホラティ人』等の紹介）。 10 同上。ミュラー劇の特性（『ヴォロコラムクス幹線路』を中心に）。 11 R. バルト、G. ドゥルーズ、F. ガタリ、J. クリステヴァの理論。ミュラーの『ハムレットマシーン』のビデオ。 12（教場で）レポートの正書・提出。
評価方法	最終授業時に教場で（指定用紙に）レポートを正書・提出してもらう。出席点・授業への積極的参加度も重視する。		
テキスト参考文献	適時、コピー・プリントを配布する。 参考文献については教場で述べる。		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	主としてドイツ現代劇を扱うが、主眼はそれらを文学史・演劇史のように＜通史的＞に語るのではなく、今日の視点から＜共時的＞に、つまり今日の哲学・社会思想史・心理学等の関心事からドイツ（や日本の）演劇の今日における存在意義を問うことにある。 受講者に、複雑な今日の社会を見通す眼力を育て、わが国の作劇術や上演術の発展にも役立つような講義を行いたい。 講義はビデオ等を多用し、演劇の視聴覚面を重視する。 後期はP. ハントケ劇、B. シュトラウス劇、E. イェリネク劇を中心に講じるが、1. 彼らの劇作の＜展示場＞的性格、つまり＜筋＞や＜メッセージ＞を追う論理中心型の表現演劇ではなく＜身体表現＞を通じて現実との共時性を感知させるような感性型の非表現演劇を紹介し、2. その援用に、数々の現代英がシーンも紹介したい。	授業計画	1 オリエンテーション：成績評価方法・授業の進め方・受け方（個人と社会、自己と他者、等）。 2 参考文献の指示。ドラマトゥルギー（作劇術）の現在。M. ヴァルザーの＜意識の演劇＞。 3 同上。S. スピルバーグ映画『1941』とJ=P. メルヴィル映画『リスボン特急』の紹介。 4 P. ハントケの＜純粋言語劇＞（『客観罵倒』『カスパー』を例に）。 5 ＜意識の演劇＞の俳優術（ハントケ映画『左ききの女』、E. ロメール映画『O 侯爵夫人』）。 6 ハントケの『ボーデン湖上の騎行』と『不安』の紹介。『不安』のビデオ。 7 W. ヴェンダース/ハントケの映画『ベルリン天使の詩』の部分紹介。 8 B. シュトラウス劇とP. シュタインの＜ベルリン・シャウビューネ＞での演出について。 9 シュトラウスの『大人も子供も』とそのビデオ紹介。 10 E. イェリネク劇の＜コラージュ＞性（R. バルト、J. ボードリヤール、J. クリステヴァの理論）。 11 イェリネクの＜コラージュ＞劇『雲。故郷。』とそのビデオ紹介。 12（教場で）レポートの正書・提出。
評価方法	最終授業時に教場で（指定用紙に）レポートを正書・提出してもらう。出席点・授業への積極的参加度も重視する。		
テキスト参考文献	適時、コピー・プリントを配布する。 参考文献については教場で述べる。		

02 年度以前	ドイツ思想・芸術各論	担当者	木村佐千子
---------	------------	-----	-------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	J. S. バッハの《マタイ受難曲》(BWV 244)は、その規模の大きさ、深い精神性から、バッハの最高傑作のひとつに数えられ、日本での演奏も盛んである。本講義では、学生のみなさんと一緒にこの作品を多角的に見ていくことで、作品自体の魅力を知ることはもちろん、総合的な生きた音楽研究への導入としたいと考えている。前期にはバッハ作品研究の基本資料、《マタイ受難曲》成立の背景、全体の構成、歌詞のなりたち、楽章種別の作曲法などについて概観し、後期には作品全体を深く掘り下げて聴いていくとともに、他の受難曲との比較を行い、バッハ死後の受容史にもふれたい。なお、授業のなかで声を出して合唱する場面なども設ける予定なので、積極的に参加してもらいたい。	授業計画	1 バッハの生涯とバッハ研究の現状
			2 受難曲とは
			3 《マタイ受難曲》の資料・稿・初演などについて
			4 《マタイ受難曲》のテキストの成り立ちとその音楽化について(1)
			5 同上(2) 聖句に基づく楽章
			6 同上(3) コラール楽章①
			7 同上(4) コラール楽章②
			8 同上(5) 自由詩楽章①
			9 同上(6) 自由詩楽章②
			10 同上(7) 各種のテキストの統合
評価方法	期末試験による評価	11	以下略
テキスト参考文献	参考文献は授業中に紹介する。	12	

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法		11	
テキスト参考文献		12	

02 年度以前	ドイツ語講読 (思想) I・II	担当者	桜井より子
---------	------------------	-----	-------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	ドイツ語文法の基礎知識をもつ学生用の中級程度のテキストを使用し、ドイツ語をていねいに読み、読解力をつけるとともに、さまざまなテーマについて考え、話し合い、また資料をまとめて発表したりレポートを書く力を養う。 テキスト Egmont Helmelt: “Franz Kafka-Das jüdische Prag”（有賀健編、朝日出版社） このテキストは、カフカの作品を直接解釈する文学研究ではなく、ユダヤ人、ドイツ人、チェコ人の生活圏が錯綜していた都市プラハの歴史、社会、文化をたどり、そこに生きたカフカが自己のアイデンティティを求めて苦悩した“記録”と作品はとらえられている。 ドイツ文化や思想について語る場合、避けては通れないナチスの問題、反ユダヤ思想の起源について認識を深めることもこの授業の目的である。	授業計画	1 講義概要説明
			2 テキスト 1 3 ページ
			3 4 6 ページ
			4 7 10 ページ
			5 発表、ディスカッション
			6 11 13 ページ
			7 14 16 ページ
			8 17 19 ページ
			9 20 22 ページ
			10 23 26 ページ
評価方法	テキスト講読に参加し、個別のテーマについて簡単な発表やディスカッションをし、レポートの提出すること。		11 発表、ディスカッション
テキスト参考文献	石川達夫著『黄金のプラハ 幻想と現実の錬金術』平凡社、小岸昭著『離散するユダヤ人』岩波新書、その他		12 発表、ディスカッション

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要		授業計画	1 講義概要説明
			2 27 29ページ
			3 30 32ページ
			4 33 35ページ
			5 36 38ページ
			6 発表、ディスカッション
			7 39 41ページ
			8 42 44ページ
			9 45 47ページ
			10 48 50ページ
評価方法			11 51 54ページ
テキスト参考文献			12 発表、ディスカッション

02 年度以前	ドイツ語講読（思想）Ⅰ・Ⅱ	担当者	洲崎恵三
---------	---------------	-----	------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	G. Kaiser: Th. W. Adorno の読解により、テオドーア・W・アドルノの認識論と美の理論入門。 戦後ドイツの一つの精神的支柱となった、フランクフルト学派「批判哲学」へのアプローチ。概念と事象、主観と客観、理性と自然、同一性と非同一性の否定弁証法、啓蒙の弁証法を学ぶ 評価方法： 日常：各自の発表（発音と和訳と文法）を毎時間評価。1 学期に少なくとも 2 回以上みずから手をあげて発表して下さい。日常の発表がなければ評価しません。 前期：各自の訳を提出。 後期：筆記試験、辞書持ち込みで、速読力、全体の把握力を評価。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献	Gerhard Kaiser: Th. W. Adorno, Athenäum Verlag, 1974 テキストはコピーする。		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	G. Kaiser: Th. W. Adorno の読解により、テオドーア・W・アドルノの認識論と美の理論入門。 戦後ドイツの一つの精神的支柱となった、フランクフルト学派「批判哲学」へのアプローチ。概念と事象、主観と客観、理性と自然、同一性と非同一性の否定弁証法、啓蒙の弁証法を学ぶ 評価方法： 日常：各自の発表（発音と和訳と文法）を毎時間評価。1 学期に少なくとも 2 回以上みずから手をあげて発表して下さい。日常の発表がなければ評価しません。 前期：各自の訳を提出。 後期：筆記試験、辞書持ち込みで、速読力、全体の把握力を評価。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献	Gerhard Kaiser: Th. W. Adorno, Athenäum Verlag, 1974 テキストはコピーする。		

02 年以前	ドイツ語講読（思想）Ⅰ・Ⅱ	担当者	林部圭一
--------	---------------	-----	------

春学期		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	講義目的： ドイツ語圏の人びとのものの考え方に関する本を独力で読めるようにする。 講義概要： K・ポッパーの晩年の著書『Alles Leben ist Problemlösen』のなかから分かりやすいエッセーと一緒に読んでいく。ポッパーという人についてはこの本のカヴァーに「Karl Raimund Popper(1902-1994) zählte zu den schöpferischsten Denkern in unserem Jahrhundert, er war der einflußreichste Philosoph unserer Zeit.」とある。	授業計画	1 ポッパーのエッセー集の中からわかりやすいものを選び、コピーして配る。参加者によって違って来るだろうが、1 回に数ページ進めれば、と思う。予習して、出席して欲しい。
			2、
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	平常の授業でのテスト、学期末の定期試験、出席回数などを考慮して評価する。学期の授業回数の3分の2以上出席すること。		
テキスト参考文献	Karl R. Popper, "Alles Leben ist Problemlösen" Piper 1994. 6. Auflage (1995)(コピー)		

秋学期		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	講義目的： ドイツ語圏の人びとのものの考え方に関する本を独力で読めるようにする。 講義概要： K・ポッパーの晩年の著書『Alles Leben ist Problemlösen』のなかから分かりやすいエッセーと一緒に読んでいく。ポッパーという人についてはこの本のカヴァーに「Karl Raimund Popper(1902-1994) zählte zu den schöpferischsten Denkern in unserem Jahrhundert, er war der einflußreichste Philosoph unserer Zeit.」とある。	授業計画	1 ポッパーのエッセー集の中からわかりやすいものを選び、コピーして配る。秋学期には春学期と同じ本から違うエッセーを選んで読みたいと思う。参加者によって違って来るだろうが、1 回に数ページ進めれば、と思う。予習して、出席して欲しい。
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	平常の授業でのテスト、学期末の定期試験、出席回数などを考慮して評価する。学期の授業回数の3分の2以上出席すること。		
テキスト参考文献	Karl R. Popper, "Alles Leben ist Problemlösen" Piper 1994. 6. Auflage (1995)(コピー)		

02 年度以前	ドイツ語講読（思想）Ⅰ・Ⅱ	担当者	船戸満之
---------	---------------	-----	------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	講義の目的：独検3級合格程度以上の読解力をもつ学生を対象に、基礎的なドイツ文法知識を再確認しながらテキスト（シンチンゲル著『ニーチェ』）を読む。著者は長年日本に滞在し日本人学生にとって判り易いドイツ語でニーチェ入門書を書いた。言及されているニーチェ原文の一部とその翻訳を随時コピー配布して理解を深めたい。 講義概要：ちょうど世紀の変わり目（1900年）に死去したニーチェは、20世紀の問題を予感的に提示したといわれる。叙述の形式はアフォリズムで、互いに矛盾する内容も少なくない。例えば「神の死」というキーワードをニヒリズムの偏在に結びつけるか、人間の自立への呼びかけと捉えるか。シンチンゲル教授の見解に沿ってポイントをつかむ。	授業計画	1 この回のみテキスト冒頭2ページをプリントして配布し、講義担当者が訳読する。
			2 毎回約3ページずつ読み進める。
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11 予備
			12 テスト
評価方法	講読の担当（30点）と学期末テスト（70点）		
テキスト参考文献	シンチンゲル・小塩著『ニーチェ』（第三書房）		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

02 年度以前	ドイツ語講読（芸術）Ⅰ・Ⅱ	担当者	木村佐千子
---------	---------------	-----	-------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	シューマン Robert Schumann (1810-1856) は、作曲家・指揮者としてのみならず、音楽評論家としても活発な活動を行い、当時の音楽界に多大な影響を与えた。この授業では、シューマンの書いた評論を取りあげ、実際の音楽に即してその内容を理解していくことを目指す。同時代の音楽家（ショパン、メンデルスゾーン、リスト、ブラームスら）、過去の大家（バッハ、ベートーヴェンら）の作品や演奏について論じた文章を、毎回 1～2 ページずつ読んでいく予定である。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	出席、テストなどによる総合評価		
テキスト 参考 文献	R. Schumann, <i>Gesammelte Schriften über Musik und Musiker</i> (Leipzig 1854) ほか		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト 参考 文献			

02 年度以前	ドイツ語講読（芸術）Ⅰ・Ⅱ	担当者	工藤達也
---------	---------------	-----	------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	講義目的：テキストを厳密に読むことを通して、ドイツ語の能力を身につける。また、テキストの背後にある文化的・歴史的背景について論じ、思考能力を高める。 講義概要：この講読の授業では、写真史・写真論のテキストを読みたいと思っている。写真史の黎明期について具体的に知るためダウテンダイのテキストを読んでいき、時間があれば、様々な写真家や写真論を紹介したい。 テキストは注の付いた読本を採用するので、読解はさほど困難ではないと思う。授業に参加する学生に訳の担当箇所を指示し、発表してもらう。	授業計画	1 講義の説明 担当者を指名する
			2 テキストの読解、説明と討論
			3 以下、同上
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	期末テスト。それに、平常点・発表回数・出席など加えて総合的に評価		
テキスト参考文献	ダウテンダイ『パパが写真家になった頃』（水藤編，三修社）		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要		授業計画	1 以下、同上
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

02 年度以前	ドイツ語講読（芸術）Ⅰ・Ⅱ	担当者	本多喜三郎
---------	---------------	-----	-------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	これまでに習得した文法知識を駆使して、ドイツ語の文章を正確に読み取る訓練をしながら、合わせてドイツ語圏の芸術に関する基礎知識を得ることを目的とする。 テキストはドイツ文化を紹介する入門書である <i>Deutsche Kultur</i> シリーズの一冊で、音楽、民謡、美術の三つのジャンルに関して歴史的に概説したものである。 テキストの文章は平易なので、かなりのスピードで読み進むことができる。25ページに及ぶ巻末の詳細な注は、文法的・語法的なものを排除して、事項に関するものに絞られており、大変参考になる。 授業ではビデオなどの視聴覚資料を随時紹介する予定であるが、授業の中心は「講読」であることを忘れないようにしたい。	授業計画	1 オリエンテーション
			2 テキスト講読 1 4 ページ
			3 テキスト講読 5 8 ページ
			4 テキスト講読 9 12 ページ
			5 テキスト講読 13 16 ページ
			6 テキスト講読 17 20 ページ
			7 テキスト講読 21 24 ページ
			8 テキスト講読 25 28 ページ
			9 テキスト講読 29 32 ページ
			10 テキスト講読 33 36 ページ
			11 テキスト講読 37 40 ページ
			12 テキスト講読 41 45 ページ
評価方法	学期末テストの結果と出席状況を主たる判断材料として、最終的な評価を行う。		
テキスト参考文献	<i>Heinz Fischer: Musik, Das deutsche Volkslied, Kunst</i> (ドイツの音楽と美術) 同学社		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	テキストは上記 <i>Deutsche Kultur</i> シリーズの一冊で、ドイツの演劇、映画、テレビの三部門に関して歴史的な概説が施されている。 授業では上記三部門のうち演劇と映画の二部門の記述を講読することとし、テレビ部門は省略する。	授業計画	1 オリエンテーション テキスト講読 1 2 ページ
			2 テキスト講読 3 6 ページ
			3 テキスト講読 7 10 ページ
			4 テキスト講読 11 14 ページ
			5 テキスト講読 15 18 ページ
			6 テキスト講読 19 22 ページ
			7 テキスト講読 23 26 ページ
			8 テキスト講読 27 30 ページ
			9 テキスト講読 31 34 ページ
			10 テキスト講読 35 38 ページ
			11 テキスト講読 39 42 ページ
			12 テキスト講読 43 46 ページ
評価方法	学期末テストの結果と出席状況を主たる判断材料として、最終的な評価を行う。		
テキスト参考文献	<i>Heinz Fischer: Theater, Film, Fernsehen</i> (ドイツの演劇) 同学社		

02 年度以前	ドイツ語講読（芸術）Ⅰ・Ⅱ	担当者	前田智
---------	---------------	-----	-----

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	舞台芸術としてのウィнна・オペレッタやドイツ語圏のミュージカルを扱う。取り上げる作品は、ウィнна・オペレッタの「白銀時代」の代表作「メリー・ウィドウ」を中心に、1992 年以降好評を博した「エリザベート」「モーツアルト」等を予定している。講義は台本の購読と音楽鑑賞（一部映像鑑賞）の 2 部構成で進めていく予定。授業計画に関しては、具体的な 1 年間の計画を第 1 回の授業時に話す予定。尚、下欄の参考文献は授業に必携とする。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	前期・後期試験。授業中の発表。出席点。		
テキスト参考文献	テキスト：プリントにて配布。 参考文献：「オペラ・オペレッタ名曲選」音楽之友社編 1200 円（必携）		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

02 年度以前	ドイツ史概論	担当者	古田善文
---------	--------	-----	------

03 年度	ドイツ史概論 a	担当者	古田善文
		担当者	
講義目的および講義概要	講義の目標： 講義の目標は、近代以降のドイツ語圏（ドイツ以外にもオーストリアやスイスも含む）の歴史の流れを受講生にわかりやすく解説することである。受講生は、主にフランス革命以降、この地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識を深め、さらに歴史的な“ものの見方”を養うことになる。 講義概要： 前期は、フランス革命期から第一次世界大戦の勃発までを対象に、そこでの近代ドイツ国家成立のプロセスとその問題点を整理していく。 後期は、ワイマール共和国の成立期からヒトラーの独裁を経て、第二次世界大戦の終結にいたる 20 世紀の激動の時代を検討する。 あわせて、戦後ドイツでナチズムや戦争の記憶がどのように受け継がれてきたかを、いくつかの主要論争の内容を紹介しながら他国の類似事例と比較検討する。	授業計画	1 年間授業計画、評価方法等について説明する。 2 歴史とは何か。主要な歴史方法論について解説する。 3 「記憶」をめぐる論争。ドイツ・オーストリアの「警鐘碑」論争を紹介しながら、歴史研究の意義と可能性を紹介する。 4 テーマ（1～3）に関連するビデオ上映。 5 ハプスブルク帝国史（13 世紀以降）。 6 19 世紀史（1）：ナポレオン時代のドイツ。 7 19 世紀史（2）：1848 年革命の社会史。 8 19 世紀史（3）：若きヒトラーと世紀末ウィーン 9 現代の開幕（1）：ドイツ統一と世界帝国への夢。 10 現代の開幕（2）：第一次世界大戦。原因論。 11 現代の開幕（3）：第一次世界大戦。経過と帰結。大戦下の民衆生活。 12 前期のまとめ（予備日）
評価方法	①前・後期末の筆記試験、②夏期休暇の課題レポート、③出席状況、に基づいて決定する。		
テキスト参考文献	原則として、毎回講義レジュメを配布する。加えて、年数回、課題図書目録を配布する。		

03 年度	ドイツ史概論 b	担当者	古田善文
		担当者	
講義目的および講義概要	ドイツ史概論 a と同じ	授業計画	1 革命の時代。ドイツ革命とオーストリア革命の比較研究。 2 ヴェルサイユ条約、サン・ジェルマン条約。 3 ファシズムの誕生。イタリア・ドイツ・オーストリア。 4 ファシズム論の変遷。 5 危機の 30 年代（1）：ナチズムの台頭と民主的政治システムの崩壊。 6 危機の 30 年代（2）：戦間期の国際政治。 7 受容と抵抗：ナチス体制下の民衆生活。 8 テーマ（5～8）に関連するビデオ上映。 9 第二次世界大戦（1）：大戦の経過と帰結。歴史的意義。 10 第二次世界大戦（2）：加害と迫害。ユダヤ人、シンチイ＝ロマへの迫害。 11 ドイツ・オーストリアにおける戦後の歴史認識。主要な歴史論争、教科書記述を題材にして。 12 後期のまとめ（予備日）
評価方法	ドイツ史概論 a と同じ。		
テキスト参考文献	ドイツ史概論 a と同じ。		

02 年度以前	ドイツの歴史	担当者	船戸満之
---------	--------	-----	------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	講義の目的：前世紀のドイツ史にナチズムが大きな影を投げかけている。その痕跡は詳細に研究され、今から振り返ればそれが巨大な悪であることは見まがうことはないが、何故そのような悪がドイツ国民によって許容されたかは依然として自明とはいえない。ナチズムをめぐる様々な発言をたどってこのテーマを考える。 講義概要：一回を前半45分と後半45分に分けて講義。 1) 前半：1960年代後半以降に日本で出版されたナチズム考察の著述から（W. マーザー著『ヒトラー』他）20冊を取り上げて、それぞれの主要な問題点を解説する。ほとんどはドイツ語からの翻訳であるが、一部日本人執筆者によるものも含む。講義聴講者には、そのうち任意の一冊を選びレポートを提出してもらう。 2) 後半：ナチス党の前身ドイツ労働者党を生み出す契機となった1918年のドイツ革命から、1945年の第三帝国崩壊までのドイツ史を年表に沿って解説する。	授業計画	1 講義プランの説明
			21) マーザー『ヒトラー上』 2) 1918 年
			31) フェスト『ヒトラー上』 2) 1919 年
			41) フェスト『ヒトラー下』 2) 1920 年
			51) トレヴァー＝ローバー『ヒトラー最後の日』 2) 1921 年
			61) ハフナー『ヒトラーとは何か』 2) 1922 年
			71) ジョルダーノ『第二の罪』 2) 1923, 24 年
			81) プレスナー『遅れてきた国民』 2) 1925, 6 年
			91) アレント『イェルサレムのアイヒマン』 2) 1927, 8 年
			101) アレント『暗い時代の人々』 2) 1928, 9 年
評価方法	レポート 30 点 期末テスト（持ち込み：テキスト） 70 点		11 予備
テキスト参考文献	船戸満之著『野蛮（ナチス）と希望の世紀を歴史的名著を通して読む』、情況出版、2002 年、定価 2400 円		12 テスト

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要		授業計画	1 ほぼ上記の授業計画に準じて進行するが詳細は第一回授業で説明する。
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法			11 予備
テキスト参考文献			12 テスト

02 年度以前	ドイツの社会・事情	担当者	H.H ゲートケ
---------	-----------	-----	----------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	In diesem Kurs sollen die Teilnehmer mit dem politischen System und staatlichen Aufbau der Bundesrepublik Deutschland vertraut gemacht werden. Dabei wird nicht nur die fachliche Terminologie und ihre Bedeutung vermittelt, sondern Sinn, Funktion und Aufgaben der staatlichen Einrichtungen sollen in ihrem Wirken und Zusammenhang erkannt und verstanden werden.	授 業 計 画	1 Vorbesprechung, Einführung
	Nach der Vermittlung einiger geografischer und historischer Grundinformationen und Klärung relevanter politischer Begriffe sollen Verfassung, staatliche Grundprinzipien, die wichtigsten Staatsorgane sowie das Wahl- und Parteiensystem behandelt werden. Unterrichtssprache ist deutsch. Um dem umfangreichen Stoff lückenlos folgen zu können, ist regelmäßige Teilnahme und eigenes Studium außerhalb des Unterrichts unbedingt erforderlich.		2 Begriffsklärung: Staat-Nation-Volk
			3 Staatsformen (Typisierungen)
			4 Bündnis-Staatenbund-Bundesstaat-Zentral-staat
			5 Deutsche Einheitsbestrebungen (historischer Abriß)
			6 BRD-Bundesländer (geografisch-politisch)
			7 Nachbarstaaten/Europa
			8 Staatssymbole: Flaggen, Wappen, Hym
			9 Herkunft "deutsch"; Sprachen in Europa, Sprachfamilien
			10 Verfassung, staatliche Grundprinzipien
			11 Republik, parlamentarische Demokratie
			12 Zusammenfassung, Fragestunde
評価方法	Am Semesterende ein schriftlicher Test		
テキスト参考文献	Kopien des Unterrichtsstoffes werden verteilt		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	In diesem Kurs sollen die Teilnehmer mit dem politischen System und staatlichen Aufbau der Bundesrepublik Deutschland vertraut gemacht werden. Dabei wird nicht nur die fachliche Terminologie und ihre Bedeutung vermittelt, sondern Sinn, Funktion und Aufgaben der staatlichen Einrichtungen sollen in ihrem Wirken und Zusammenhang erkannt und verstanden werden.	授 業 計 画	1 Einführung in das 2. Semester, Testbesprechung
	Nach der Vermittlung einiger geografischer und historischer Grundinformationen und Klärung relevanter politischer Begriffe sollen Verfassung, staatliche Grund-prinzipien, die wichtigsten Staatsorgane sowie das Wahl- und Parteiensystem behandelt werden. Unterrichtssprache ist deutsch. Um dem umfangreichen Stoff lückenlos folgen zu können, ist regelmäßige Teilnahme und eigenes Studium außerhalb des Unterrichts unbedingt erforderlich.		2 Rechtsstaat, Sozialstaat
			3 Föderalismus
			4 Staatsorgane I: Bundespräsident, Bundestag
			5 Staatsorgane II: Bundesregierung, Bundesrat, Bundesverfassungsgericht
			6 Gewaltenteilung: horizontal-vertikal
			7 Gesetzgebungskompetenzen
			8 Wahlsystem I
			9 Wahlsystem II
			10 Parteiensystem I
			11 Parteiensystem II
			12 Zusammenfassung, Fragestunde
評価方法	Am Semesterende ein schriftlicher Test		
テキスト 参考 文献	Kopien des Unterrichtsstoffes werden verteilt		

02 年度以前	ドイツの地誌・民俗	担当者	大串紀代子
---------	-----------	-----	-------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	単にドイツ語の習得だけでなく、広く地誌・民俗の観点から、より深い文化理解を進める。前もってプリントを配布するので、予習し、発表すること。プレゼンテーションの習得も兼ねる。 更に、日本の文化・地誌の諸事情との比較・分析も行うので、各自テーマ・地域毎に調査、発表する。	授業計画	1 ドイツ語圏の地理的条件と日本との比較
			2 同上
			3 同上
			4 同上
			5 各都市の発達：北部
			6 各都市の発達：中央部
			7 各都市の発達：南部
			8 各都市の発達：東部
			9 季節毎の民俗行事及び日本との比較：5月
			10 季節毎の民俗行事及び日本との比較：6月
			11 季節毎の民俗行事及び日本との比較：7月
			12 季節毎の民俗行事及び日本との比較：8月
評価方法			
テキスト参考文献			

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要		授業計画	1 季節毎の民俗行事及び日本との比較：9月
			2 季節毎の民俗行事及び日本との比較：10月
			3 季節毎の民俗行事及び日本との比較：11月
			4 季節毎の民俗行事及び日本との比較：12月
			5 季節毎の民俗行事及び日本との比較：1月
			6 季節毎の民俗行事及び日本との比較：2月
			7 季節毎の民俗行事及び日本との比較：3月
			8 季節毎の民俗行事及び日本との比較：4月
			9 総括1：地理的条件と生活
			10 総括2：社会的条件と民俗
			11 総括3：時代的条件と生活
			12 総括4：経済的・政治的条件と民衆
評価方法			
テキスト参考文献			

02 年度以前	ドイツの政治・対外関係	担当者	古田善文
---------	-------------	-----	------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	講義の目的：本講義では、各種補助教材（毎回配布の講義レジュメ・ビデオ教材など）を使用しながら、ドイツ語圏に位置する各国の内政・外交システムの特徴をわかりやすく比較紹介・解説する。 講義概要：第二次世界大戦直後から現代にいたるドイツ語圏諸国、具体的にはドイツ（1949～1990 年までは東西ドイツ）、オーストリア、スイスを対象に設定する。前期は、各国の国内政治・選挙・政党・司法・行政システムの現状を比較検討する。後期は、ドイツ・オーストリアの戦後政治の流れを「国際政治」の枠組みのなかで検討する。	授業計画	1 年間計画、講義目標、評価方法等についての説明
			2 ドイツ連邦共和国の政治・選挙システム
			3 オーストリア、スイスの政治・選挙システム
			4 ドイツ語圏の諸政党の歴史と現状（1）社会民主主義政党
			5 同上
			6 ドイツ語圏の諸政党の歴史と現状（2）保守政党
			7 同上
			8 ドイツ語圏の諸政党の歴史と現状（3）緑の党と自由民主党
			9 同上
			10 ドイツ語圏の諸政党の歴史と現状（4）極右政党とネオナチ団体
			11 同上
			12 前期のまとめ（予備日）
評価方法	前期は指定されたテーマについてレポートを提出する。後期は筆記試験を実施する。出席は原則として毎回チェックする。		
テキスト参考文献	原則として講義レジュメ（プリント）を配布する。		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要		授業計画	1 ドイツの敗戦と戦後政党活動の開始（社会主義統一党の成立）
			2 戦後変革の諸相（非ナチ化、土地改革、社会化）
			3 連合国占領の比較研究
			4 西ドイツの成立と NATO（「分断」への道）
			5 永世中立国オーストリアの誕生
			6 ドイツ、オーストリアの戦後補償
			7 「ベルリンの壁」建設と東ドイツ
			8 ブラント政権の誕生と東方外交
			9 ドイツ統一とコール政権
			10 1998 年選挙とシュレーダー政権の誕生
			11 欧州連合と 21 世紀のドイツ、オーストリア
			12 後期のまとめ（予備日）
評価方法			
テキスト参考文献			

02 年度以前	ドイツの経済	担当者	大重 光太郎
---------	--------	-----	--------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	今日のドイツ経済・社会システムは「社会的市場経済」と特徴付けられており、アングロサクソンの市場経済のあり方とは異なる、高度に制度化された市場経済のあり方を示している。こうしたドイツ固有のありかたを理解することが第一の目標である。しかし経済のグローバル化と EU 統合によってドイツの伝統的な制度的特徴は解体に向かいつつあるように思われる。現代ドイツの経済・社会システムが抱える問題の検討を通じてドイツの将来展望について考察することが第二の目標である。こうした点を、日本との比較を視野にいれて扱っていく。 前期は、ドイツの経済・社会システムの歴史的発展を概観する。同時に、ドイツ経済・社会システムの理解において重要であると思われる社会科学的基础概念、とりわけ経済政策・社会政策上の概念を取り扱う。 後期には、前期における歴史的概観を踏まえて、ドイツ・モデルを個別の領域ごとにみていく。その際、日本との比較という観点から個別領域の制度を検討する。ドイツ・モデルの個別領域における特徴を確認すると共に、それらが経済のグローバル化や EU 統合によって度のような変容を遂げてきているかに留意していく。 なお、具体的な講義予定の内容、順番については変更がありうることを予め述べておきたい。 具体的な進め方について。 1. 参加者には毎回授業の最後に、自分にとって重要だった点、質問・疑問点、感想を書いて提出してもらう。また適宜、小課題（小レポート）を出す。 2. 日本との比較を行う際、日本のあり方については、グループごとに担当を割り当て、予め決められたグループには、講義の始めに発表してもらう。	授業計画	1 導入（本講義の目標と予定）
			2 ドイツの経済・社会システムの全体的特徴 ー 日本、アメリカとの比較において（1）
			3 ドイツの経済・社会システムの全体的特徴 ー 日本、アメリカとの比較において（2）
			4 経済・社会システムの歴史的発展の理論（1）
			5 経済・社会システムの歴史的発展の理論（2）
			6 ドイツにおける歴史的発展（1） 関税同盟と産業革命（1800－1870）
			7 同（2） ドイツ統一から第一次世界大戦まで（1870－1918）
			8 同（3） ワイマール期の経済・社会システム（1918 - 1933）
			9 同（4） ナチス期の経済・社会システム（1933 - 1945）
			10 同（5） 戦後の「経済の軌跡」とケインズ主義（1945 - 1982）
評価方法	学期末評価は、レポートおよび授業における課題への取り組みの評価によって行う。試験は行わない。		11 同（6） 新自由主義と「新しい中道」
テキスト参考文献	テキストは用いない。参考文献は、テーマごとに指示する。全体に関する外観として、さしあたり以下を挙げておく。 加藤雅彦（他）『事典 現代のドイツ』（1998 年） 大西健夫（編）『ドイツの経済』（1992 年） 高橋・大西（編）『ドイツの企業』（1997 年）		12 EU とドイツ経済

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	前期の説明を参照。	授業計画	1 ドイツ・モデルとアングロサクソン・モデル（1）
			2 同（2）
			3 労使関係（1）
			4 労使関係（2）
			5 産業組織（1）
			6 産業組織（2）
			7 財政政策・金融政策
			8 社会保障制度
			9 教育制度
			10 家族制度
評価方法	前期と同様。		11 環境政策
テキスト参考文献	前期と同様。		12 まとめ：ドイツモデルの将来、日本モデルの将来

02 年度以前	ドイツの法律	担当者	市川須美子
---------	--------	-----	-------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	ドイツ法では、ドイツの法制度のしくみの概要を公法を中心に紹介し、日本法と比較しながら、それぞれの法制度の特徴を理解することを目標とする。 基本法を頂点とするドイツの法体系と裁判制度の理解の上に、各論的に、地方自治制度、行政法、民法(家族法)、社会法、教育法分野を比較法的に検討する。ドイツ法の実態にふれるために、憲法判例、行政判例の和訳も行なう。 受講生への要望 ドイツ法判例を読むので、一定程度のドイツ語力(法学部生はドイツ語履修済のこと)と、法学の基礎知識が必要。板書は、ドイツ語が多くなります。	授業計画	1. 本講義の目標と予定 2. ドイツの法体系、基本法、連邦法、ラント法、法律と条例 3. 基本法(1) 憲法原理 4. 基本法(2) 基本権 5. 裁判制度(1) 裁判管轄と特徴 6. 裁判制度(2) 司法改革と裁判官 7. 地方自治(1) 概要としくみ 8. 地方自治(2) 住民参加 9. 地方自治(3) 住民投票 10. 憲法判例(1) 11. 憲法判例(2) 12. ドイツ行政法と日本行政法(13.)
評価方法	前期…レポート 後期…試験		
テキスト参考文献	テキスト…村上・マルチュケ著『ドイツ法入門』有斐閣 参考文献…ドイツ憲法判例研究会『ドイツの憲法判例』信山社		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要		授業計画	1. 環境法(1) 歴史的展開 2. 環境法(2) 環境影響評価法・環境情報法 3. 社会法(1) 社会法の法典化 4. 社会法(2) 少年福祉法(KJH1G) 5. 社会法(3) 介護保険法 6. 成年後見制度 7. 社会法判例 8. 教育法(1) 学校制度と教育改革 9. 教育法(2) 教育憲法裁判の展開 10. 教育法(3) 信教の自由と学校教育 11. 教育法(4) 日本法との比較 12. ドイツ法と EU 法(13.)
評価方法			
テキスト参考文献			

02 年度以前	ドイツ語講読（歴史）Ⅰ・Ⅱ	担当者	飯沼隆一
---------	---------------	-----	------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	歴史に関するドイツ語を読む練習と、ドイツ（およびドイツ語圏）の大まかな歴史の流れのイメージを（日本語で）つかむことを目的にしたい。 前期はドイツが近代国家として確立してくるビスマルク時代から第二次世界大戦、ヒトラー時代の終焉までを見たい。場合によってはナチズムについていろいろな視点から考えてみたい。	授業計画	1（特に順序は決めていません）
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	定期試験、平常評価で決めます。		
テキスト参考文献	ハフナー『ヒトラーという現象』（林部編） その他		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	後期は近代以前の範囲で、いくつかの事象（宗教改革など）や重要な人物を取り上げ、個別的なアプローチをしたい。なるべく歴史を読む面白さを求めたい。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	定期試験、平常評価と内容に関する短いレポート一本程度を考えています。		
テキスト参考文献	シュトリッヒ『文芸復興と宗教改革』（相良編） その他		

02 年度以前	ドイツ語講読(歴史) I・II	担当者	井村行子
---------	-----------------	-----	------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	この授業は購読であるので、ドイツ語のテキストを毎回読んでいくことになると思う。具体的なテキストはまだ決めていないが、ドイツ史の中のポーランド人を扱った文献を読む予定である。 19 世紀ヨーロッパは移民の世紀であったが、ドイツでは、統一後(1871)、工業化が急速に進むと、海外移民は急速に減少し、東西移動といわれる国内移動がこれにとって代わった。しかし、従来無視されてきたのは、この東ドイツから西ドイツへ移住した人々の多くがポーランド人であったという事実である。プロイセンは三次に渡るポーランド分割(1772, 73, 93)によって多くのポーランド人をその国土ごと飲みこんだ。この人たちの歴史に少しでもふれることによって、ドイツの中のポーランド人というより大きな問題を考えるよすがにしたい。	1	
		2	
		3	
		4	
		5	
		6	
		7	
		8	
		9	
		10	
評価方法	学期末試験の予定	11	
テキスト参考文献	伊藤定良『異郷と故郷』(東京大学出版会)、伊藤定良『ドイツの長い 19 世紀』(青木書店)	12	

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	具体的なテキストはまだ決めていないが、ドイツのトルコ人に関する資料を読む予定である。 現在、ドイツに住むトルコ人の多くは、1961 年の雇用双務協定によって西ドイツの労働力不足を解消するためにトルコ共和国から呼び寄せられた人々とその家族である。移民たちは、その後、二次に渡る石油危機、極右政党の共和党(REP)の勢力拡大、ドイツ再統一、移民排斥など多くの困難を体験することになった。 2002 年秋、社会民主党(SPD)と緑の党の連合政権は辛くも存続を確保した。この二つの党は従来、政権にあったキリスト教民主同盟(CDU)や自由民主党(FDP)と比べて、移民に対して寛容な政党といわれている。シュレーダー政権の下で移民たちの生活はどのように変わったのか、あるいは変わらなかったのか、この点を検証してみたい。	1	
		2	
		3	
		4	
		5	
		6	
		7	
		8	
		9	
		10	
評価方法	学期末試験の予定	11	
テキスト参考文献	内藤正典『アッラーのヨーロッパ』(東京大学出版会)	12	

02 年度以前	ドイツ語講読（歴史）Ⅰ・Ⅱ	担当者	古田善文
---------	---------------	-----	------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	講義の目的：本講座では、受講生の関心の高いドイツ現代史の分野から、専門的な歴史論文を講読する。この作業を通じて、受講生は、学術論文の論理的な文体や未知の専門用語に慣れながら、専門文献の読み方・訳し方の技術を磨く。同時に、ドイツ現代史に関連した基本的な知識の修得にも努める。 講義概要：ドイツの代表的週間誌『シュピーゲル』や各種歴史書のなかから、受講生の関心に応じて、ドイツやヨーロッパ現代史に関連するテーマを抜粋して読むこととする。具体的教材は、初回に受講生の意見をまじえて複数の候補から選択・決定するが、さしあたり本年度は、ベルリンやウィーンの“警鐘碑”論争を通じて、近年注目されている“戦争・迫害の記憶”に関連する論文を読む予定である。必要に応じて、対象テーマについての予備講義や受講生による小発表なども随時実施する。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	前期レポート、後期試験、出席状況、授業への貢献度から総合的に評価する。		
テキスト参考文献	H.Ruppel, I.Schmidt(Hrsg.), Warum soll ich trauern? Gedenkstättenbesuche vorbereiten und begleiten, Berlin, 2002.		

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

02 年度以前	ドイツ語講読（社会）Ⅰ・Ⅱ	担当者	大串紀代子
---------	---------------	-----	-------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	日々大きく変動する社会の中であって、私達も情報の渦の中にある。 このような時に、正確な情報を得、バランスのとれた判断をしてゆくことが求められる。この授業では、現代ドイツ語を習得、読解するにとどまらず、様々な情報を適切に分析、比較し、判断する能力を養う。 実際には、 1.インターネットによる現時点のニュースをとる 2.背景となっている諸事情を学びつつ翻訳する 3.訳文を正確な日本語で表現する 4.結果を HP 上で発表する 参加学生は、上記4点をすべて自主的に行わなければならない。 病気、忌引意外は上記3点を必ず行う。	授業計画	1 ニュース・ソース紹介。クラスメールアドレス作成。役割分担（政治・経済・時事・スポーツ）
			2 現時点のニュースの翻訳文作成。
			3 同上
			4 同上
			5 同上
			6 同上
			7 同上
			8 同上
			9 同上
			10 同上
			11 同上
			12 同上
評価方法	上記4点を持続的に行った者のみ評価対象		
テキスト参考文献			

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	前期に同じ。 但し、長期休暇中も HP 掲載は休めないの、休暇中も上記4点は続ける。	授業計画	1 前期の作業続行
			2 同上
			3 同上
			4 同上
			5 同上
			6 同上
			7 同上
			8 同上
			9 同上
			10 同上
			11 同上
			12 同上
評価方法	前期に同じ		
テキスト参考文献			

02 年度以前	ドイツ語講読（社会）Ⅰ・Ⅱ	担当者	永岡 敦
---------	---------------	-----	------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	終局の目標は読解力の向上にあります。ふつうとは異なった手法でアプローチします。 すなわち、一般には多読ないし速読によって、つまり量的積算によって向上を目指しますが、本講義では折りにふれテキスト中の基本的な文例を対象として、時称、態、文形式の変換、話法の助動詞による文の拡張、また直説法から接続法への変換等を、指名された受講者自身によって徹底的に反復演習します。 これによって、ドイツ語の構文規則をより深く実感し、以てどんなに複雑な文であっても、結局は一つ一つの規則の複合体であることが、だんだんと理解されていくでしょう。 ドイツ語文は「固い・理屈っぽい」と評する向きもありますが、これは換言すれば「論理的」であるということにほかなりません。大学生活の半ばを過ぎた（つまり、もう立派な大人の仲間入りをした）諸君にすれば、ドイツ語文を解釈することは、いわば（高級な）パズルを解くようなもので、すべからず知的好奇心を刺激されることと確信しています。 最初の一ヶ月ほどは平易なテキストを材料にして基本的な文法演習を行い、受講者の実力を判断します。その後、一度、懇談の機会を設け、その後の進捗や新たなテキストの選択をします。 出席は「当たり前」のことと認識して下さい。 正当な理由なく欠席の多い場合は、クラス全体レベル維持のために名簿から削除する場合があります。 長期の疾病等、個別の事情がある場合は、なるべく早く講義終了後にでも聞かせてください。秘密は当然、厳守します。	授業計画	本講義は、左記のごとく、まず以て受講者のこれまでの文法知識の達成度を測るところから始めるため、テキストのページ数といった観点からは、その後の進捗は流動的です。参加者全員の aktiv な受講態度によってこそ、得ることが多いと理解して下さい。 * * * * * テキストは一話完結式のものを予定しているので、前期のセメスターに参加していないからといって、ストーリーがわからないという事態には陥りません。しかし、後期は前期中に履修・確認済みの文法項目については詳説しないので、自ら知識の補修を行う必要があります。 * * * * * ガイダンスを行うので、初回から必ず出席してください。
	評価方法		セメスター末にペーパーテストを実施。 他に、日頃の指名に対する解答のありようを考課。
	テキスト参考文献		テキストはプリントで配布。以前用いた 1. 文法の教科書 2. 独和辞典（『アクセス独和辞典』を推奨）を必ず持参して受講すること。

02 年度以前	ドイツ語講読（社会）Ⅰ・Ⅱ	担当者	林部圭一
---------	---------------	-----	------

春学期		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	講義目的： 現代のドイツ語圏社会について書かれた新聞、雑誌、インターネットなどの記事を独力で読めるようにする。 講義概要： できるだけわかりやすく、新鮮な記事を探して、一緒に読む。	授業計画	1 記事をコピーして配る。参加者によって違ってくるだろうが、1 回に数ページ進めれば、思う。予習して、出席して欲しい。
			2、
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	平常の授業でのテスト、学期末の定期試験、出席回数などを考慮して評価する。学期の授業回数の 3 分の 2 以上出席すること。		
テキスト参考文献	未定(コピー)		

秋学期		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	講義目的： 現代のドイツ語圏社会について書かれた新聞、雑誌、インターネットなどの記事を独力で読めるようにする。 講義概要： できるだけわかりやすく、新鮮な記事を探して、一緒に読む。	授業計画	1 記事をコピーして配る。参加者によって違ってくるだろうが、1 回に数ページ進めれば、思う。予習して、出席して欲しい。
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	平常の授業でのテスト、学期末の定期試験、出席回数などを考慮して評価する。学期の授業回数の 3 分の 2 以上出席すること。		
テキスト参考文献	未定(コピー)		

02 年度以前	ドイツ語講読（社会）Ⅰ・Ⅱ	担当者	I. アルブレヒト
---------	---------------	-----	-----------

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	Lesen ist eine wunderbare Möglichkeit, als Lerner(speziell in einer nicht-deutsch sprachigen Umgebung) ziemlich einfach selbständig seine Sprachkenntnisse zu erweitern und zu erhalten. Voraussetzung ist aber eine Lesetechnik, die über das Wort-für-Wortübersetzen mit Hilfe eines Wörterbuchs hinausgeht, denn das mühsame Herumstochern in einem Text nimmt dem fleißigsten Studenten die Freude am Lernen. Lesestrategien sind aber nicht angeboren, die muss man lernen. Wir werden verschiedene Techniken, wie man sinnvoll an einen Text herangeht, kennenlernen und ausprobieren. Die zweite Voraussetzung für gewinnbringendes Lesen sind Texte, die anspruchsvoll und interessant, aber nicht zu schwierig sind. Gelesen werden Essays und Artikel zu aktuellen gesellschaftlichen Themen aus der Wochenzeitung <i>Die Zeit</i> , aus Tageszeitungen oder dem Internet	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法	Regelmäßige Teilnahme am Unterricht und active Mitarbeit. Teste jeweils am Semesterende		11
テキスト 参考 文献	Kopien, werden in der ersten Stunde bzw. Im Unterricht verteilt		12

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要		授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法			11
テキスト 参考 文献			12

2003 年度

外国語学部共通科目シラバス

獨協大学

外国語学部共通科目 2003年度入学者用

目 次

◇ … 春学期開講科目
◆ … 秋学期開講科目

総合講座	◇ 佐藤唯行	1
総合講座	◆ 佐藤唯行	1
情報科学概論a	◇ 呉浩東	2
情報科学概論b	◆ 呉浩東	2
情報科学各論(入門)	◇ 各担当教員	3
情報科学各論(初級)「表計算入門」	◇ ・ ◆ 各担当教員	4
情報科学各論(初級)「プレゼンテーション」	◇ ・ ◆ 金井満	5
情報科学各論(初級)「HTML入門」	◇ ・ ◆ 各担当教員	6
情報科学各論(中級)「表計算応用1」	◆ 松山恵美子	7
情報科学各論(中級)「HTML応用1」	◇ 東孝博	8
情報科学各論(中級)「HTML応用1」	◆ 金子憲一	9
情報科学各論(中級)「HTML応用1」	◆ 田中雅英	10
情報科学各論(中級)「HTML応用2」	◆ 東孝博	11
情報科学各論(中級)「データベース1」	◇ 長崎等	12
情報科学各論(中級)「データベース1」	◇ ・ ◆ 松山恵美子	13
情報科学各論(中級)「データベース2」	◆ 長崎等	14
情報科学各論(中級)「プログラミング論1」	◇ 呉浩東	15
情報科学各論(中級)「プログラミング論2」	◆ 呉浩東	15
経済原論a	◇ 阿部正浩	16
経済原論b	◆ 阿部正浩	16
社会心理学a	◇ 玉井寛	17
社会心理学b	◆ 玉井寛	17

03 年入学者		総合講座	担当者	(春学期)佐藤 唯行	
講義目的および講義概要	「世界のマイノリティと民族問題」というテーマのもとに主として外国語学部 に所属する教員が1年間にあたり、輪講形式で、各自の専門の話をしています。90分授業の内、75分を講義、最後の15分を質疑応答にあてはることで、となく一方通行になりがちで通常授業の欠点を解消するものです。聞き手である学生諸君からの積極的な質問を歓迎します。			授 業 計 画	1 佐藤唯行, ガイダンス
				2 佐藤唯行, アメリカ政治のユダヤ・パワー	
				3 中野 聡 , フリッパー・アメリカ人の語り方	
				4 平田雅博, 英国黒人の歴史と現在	
				5 辻康吾, 中国の少数民族政策	
				6 佐原徹哉, バルカンの民族問題とマケドニア	
				7 佐藤勘治, 米国ラティーノ	
				8 〃 〃 , ラテンアメリカの先住民	
				9 山本英政, ハワイ: 先住民アメリカへ —日本人の移動, 2の1—	
				10 〃 〃 〃 〃 〃 〃 2	
				11 井藤早織, スコティッシュの選抜—「イギリス」 のなかのスコットランド人—	
				12 井上兼行, カリブ海地域の黒人クレオール 2の1	
評価方法	前期、後期に筆記試験を実施、形式は4択20問のクイズ形式で、範囲は授業内容に即したものです。				
テキスト参考文献					

03 年入学者		総合講座	担当者	(秋学期)佐藤 唯行
講義目的および講義概要	前期と同じ	授 業 計 画	1 佐藤唯行, 試験問題返却・講評・後期ガイダンス	
			2 竹田いさみ, インドネシア・南太平洋の民族紛争	
			3 本田浩邦, ロサンゼルスの人種・移民問題 (1) アフリカ・メキシコ国境の意味を考へ	
			4 = = , = = (2) IT時代のスウェットショップ	
			5 金子芳樹, 華僑・華人コネクション—ネットワークが支える社会—	
			6 = = , マイノリティーとしてのイスラム教徒—過激派テロリストを生むメカニズム—	
			7 辻康吾, 中国の少数民族問題	
			8 右田善文, 統一ドイツの民族問題	
			9 = = , EU諸国における極右・ポピュリスト勢力の台頭	
			10 高橋雄一郎, セクシヤリティーアメリカを中心に—	
			11 御園生真, 19世紀前半の4エコの経済発展と民族—4エコ人・ドイツ人・ユダヤ人—	
			12 高橋雄一郎, セクシヤリティーの多様性を求めて—アメリカを中心に—	
評価方法				
テキスト参考文献				

03 年入学者		情報科学概論 a	担当者	(春学期)呉 浩東
講義目的および講義概要	本講義では、情報科学とコンピュータの勉強をされる学生たちを念頭におき、情報科学とコンピュータリテラシの話からスタートし、コンピュータの歴史と仕組み、情報のデジタル化とコンピュータによるデータの表現や、コンピュータの原理を紹介する。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係を概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に、情報の符号化、数値や文字などデータのコンピュータ内での表現、データの入出力、プログラム構造、ソフトウェア開発の概要について述べる。本講義は情報処理技術者試験を受験しようとする学生たちに、また、コンピュータに関する知識を中心とした情報科学に深い興味をもつ学生たちに十分に役立つように工夫している。	授業計画	1 本講義の概略 前期講義概要、評価の方法と基準、授業の進め方 2 情報とは何か 情報の持つ性質、情報の形態、情報の発達 3 コンピュータの歴史と特徴 計算機の変遷とコンピュータの世代論 4 数の体系と基数変換 2進数と16進数、基数変換 5 データ表現 情報量の単位と文字コード、数値データの種類 6 コンピュータの構成要素(1) 中央処理装置とメインメモリ 7 コンピュータの構成要素(2) 2次記憶装置と周辺装置 8 コンピュータ・ソフトウェアの概略 ソフトウェアの役割、体系と種類 9 オペレーティングシステム(OS) OSの基礎概念、OSの構成と機能 10 コンピュータ言語 コンピュータ言語の目的と分類 11 基本データ構造 木構造、配列構造、リスト構造、スタック構造 12 ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守	
	評価方法		期末のテストと、レポートの提出および出席を加味して評価する。	
	テキスト参考文献		(1) 最初の講義で指示する (2) 随時必要な資料を配布する	

03 年入学者		情報科学概論 b	担当者	(秋学期)呉 浩東
講義目的および講義概要	本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術に重点をおき、コンピュータ利用技術に関するさまざまな知識を概説する。 具体的に、ファイルとデータベースの構造、データベース管理システムの概要、データ通信とコンピュータ・ネットワーク、特にインターネットについて述べる。最後に、情報システムの設計、情報セキュリティについて解説する。最後に、情報技術の最新展開を紹介し、コンピュータを使いながら情報検索や情報処理のテクニックを身に付けることを目標とします。本講義は情報処理技術者試験を受験しようとする学生たちに、また、コンピュータに関する知識を中心とした情報科学に深い興味をもつ学生たちに十分に役立つように工夫している。	授業計画	1 ファイルの構造 ファイルの構造、種類、用途 2 データベース データベースの概要、データベースの種類 3 データベース言語 データベース言語、データベースの定義と操作 4 データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化 5 コンピュータ通信 情報通信の基礎、データ転送のしくみ 6 コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式 7 インターネット インターネットの仕組み、通信規約 TCP/IP、DNS 8 インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど 9 インターネットと社会 ネットワークセキュリティ、暗号システムの基礎 10 マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、バーチャルリアリティ 11 情報検索 情報検索の方法と演習 12 アプリケーション・ソフトウェア オンラインソフトの使い方と使用	
	評価方法		期末のテストと、レポートの提出および出席を加味して評価する。	
	テキスト参考文献		(1) 最初の講義で指示する (2) 随時必要な資料を配布する	

03 年入学者	情報科学各論（入門）	担当者	(春学期)各担当教員
講義目的および講義概要	現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活（広くは社会生活）で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。 コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク（通信）、情報倫理についてである。 注意 第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。	授業計画	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作
			2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション
			3 日本語入力とタイピング
			4 インターネット—ブラウザ・メール・検索（1）
			5 インターネット—ブラウザ・メール・検索（2）
			6 情報倫理
			7 ワープロ入門—文書の編集（1）
			8 ワープロ入門—文書の編集（2）
			9 ワープロ入門—文書の編集（3）
			10 ワープロ入門—文書の編集（4）
			11 ワープロ入門—文書の編集（5）
評価方法	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。		12 総合問題

03 年入学者	情報科学各論（初級）「表計算入門」	担当者	(春学期)・(秋学期)各担当教員
講義目的および講義概要	この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。 この授業では、表計算 (MS-Excel) の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。 注意 第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。	授業計画	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用 (1) 7 関数の利用 (2) 8 関数の利用 (3) 9 プレゼンテーション (1) ー作成 (MS-Powerpoint とは) 10 プレゼンテーション (2) ー作成 (データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション (3) ー発表
	評価方法 授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。		12 総合演習

03 年入学者	情報科学各論（初級）「プレゼンテーション」	担当者	(春学期)・(秋学期)金井 満
講義目的および講義概要	講義の目標： この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。 講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。	授業計画	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
	評価方法		2 Powerpoint の基本操作 1
	テキスト 参考文献		3 Powerpoint の基本操作 2
	グループ及び個人プレゼンテーション。		4 Powerpoint の基本操作 3
	テキスト 授業で指示します。		5 Powerpoint の基本操作 4
			6 Powerpoint の基本操作 5
			7 プレゼンテーションの注意点
			8 グループプレゼンテーションの組み分けと個人プレゼンテーションの準備
			9 個人プレゼンテーションの準備
			10 個人プレゼンテーション
			11 個人プレゼンテーション
			12 個人プレゼンテーション

03 年入学者	情報科学各論（初級）「HTML 入門」	担当者	(春学期)・(秋学期)各担当教員
講義目的および講義概要	この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。 この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 注意 第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。	授業計画	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成 3 ファイルの種類とフォルダ構成 4 WWW と WWW ブラウザ 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成ーテキスト 8 ホームページの作成ーリンク 9 ホームページの作成ーイメージ 10 ホームページの作成ーテーブル・その他 11 ホームページの作成ー完成
	評価方法 授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。		12 ファイルの転送とページの更新

03 年入学者		情報科学各論（中級）「表計算応用 1」	担当者	(秋学期)松山 恵美子
講義目的および講義概要	本講義は表計算ソフト (Excel) の基礎をマスターした学生を対象として行う。 Excel には様々な機能が用意されている。その中のひとつに「マクロ」機能がある。「マクロ」とは一連の操作を登録しておき、その操作を行いたいときに呼び出すと実行できるという機能である。 本講義は簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で作成された VBA (Visual Basic for Applications) プログラムを理解することを目指す。 ツールバー上のボタンを利用すると処理が行われる。それと同じことがプログラミングでもできるということを「マクロ」機能を通じて学習する。		授業計画	1 ガイダンスと Excel の復習
				2 マクロとは
				3 マクロの実行方法
		4 マクロの作成 (1)		
		5 マクロの作成 (2)		
		6 フォームの利用		
		7 Visual Basic Editor の利用 (1)		
		8 Visual Basic Editor の利用 (2)		
		9 Visual Basic Editor の利用 (3)		
		10 最終課題作成 (1)		
		11 最終課題作成 (2)		
		12 最終課題作成 (3)		
評価方法	出席とレポート課題			
テキスト参考文献	第 1 回目の授業で指示			

03 年入学者		情報科学各論（中級）「HTML 応用 1」	担当者	(春学期)東 孝博
講義目的および講義概要	Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ること为目标とする。 最初に、簡単なCGIの利用とJavaスクリプトの埋め込みを通して、HTMLによるWebページ作りの復習をする。次に、Javaアプレットの概要を説明する。そして、プログラムを構成する要素である変数、配列、文などと、イメージの表示やグラフィックスの描画の方法を、プログラミングの経験がないことを前提に説明する。 注意 情報科学各論(初級)「HTML入門」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。		授業計画	1 授業内容説明
				2 HTML の復習（簡単な CGI の利用）
				3 HTML の復習（Java スクリプトの埋め込み）
				4 Java アプレットの概要
				5 プログラム練習（グラフィックスイメージの表示）
				6 プログラム練習（定数と変数）
				7 プログラム練習（for 文 1）
				8 プログラム練習（for 文 2）
				9 プログラム練習（if 文）
				10 プログラム練習（配列）
評価方法	日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。			11 プログラム練習（Math オブジェクト）
テキスト参考文献	プリントを配布する。 参考文献は適宜紹介する。			12 総合演習

03 年入学者		情報科学各論（中級）「HTML 応用 1」	担当者	(秋学期)金子 憲一
講義 目的 および 講義 概要	講義の目標 この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コミュニケーション技術を得ることを目標とする。	授業 計画	1	ガイダンスとイントロダクション
	講義の概要 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。		2	HTML と FTP の復習（1）
			3	HTML と FTP の復習（2）
			4	インタラクティブなページ（HTML と CGI）
			5	JavaScript（1）
			6	JavaScript（2）
			7	JavaScript（3）
			8	JavaScript（4）
			9	CGI の利用（1）
			10	CGI の利用（2）
			11	CGI の利用（3）
			12	総合報告会
			評価 方法	授業中に作成する課題と平常点（宿題含む）で総合評価する。出席は特に重視する。最低限のルール（禁飲食等）を守れない場合は、即時失格とする。
テキ スト 参考 文献	授業中に指示する。 プリントの配布も行う。			

03 年入学者		情報科学各論（中級）「HTML 応用 1」	担当者	(秋学期)田中 雅英
講義目的および講義概要	この授業は情報科学各論(初級)「HTML 入門」に続く中級コースである。HTML 入門を受講済みの学生を対象に、単に HTML 言語の更なる発展を目指すのではなく、cgi や java script にまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目指とするのではなく、その過程においてコンピュータやネットワークの理解を深め、その積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブな双方向のコミュニケーションを図ることにより、情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。 なおこの授業計画はあくまでの一つの目安であり、途中で更なる発展を目指す変更は当然ありえる。		授業計画	1.ガイダンスと復習
				2.Web ページのネットへのアップロード等
				3. java script 1
				4. java script 2
				5. java script 3
				6. java script 4
				7.cgi 1
				8.cgi 2
				9.情報の収集 1
				10.情報の収集 2
				11.応用
				12.その他
評価方法	授業中に指示する課題と平常点で評価する。			
テキスト参考文献	授業中に適宜指示する。			

03 年入学者		情報科学各論（中級）「HTML 応用 2」		担当者	(秋学期)東 孝博
講義目的および講義概要	Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語とされている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ること为目标とする。 最初に、Javaの基本構造を説明する。続いて、マウスやキーに対するイベント処理、ボタン等のGUI部品の使用、スレッド機能を利用したりアルタイム処理を通してJavaアプレットへの理解を深める。 注意 情報科学各論(中級)「HTML応用 1」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。			授業計画	1 Java の基本構造
		2 イベント処理（マウスイベント 1）			
	3 イベント処理（マウスイベント 2）				
	4 イベント処理（キーイベント 1）				
	5 イベント処理（キーイベント 2）				
	6 GUI 部品の使用（ボタン・チェックボックス）				
	7 GUI 部品の使用（選択ボックス・スクロールバー）				
	8 GUI 部品の使用（GUI 部品のレイアウト）				
	9 スレッドの利用（イメージの移動）				
	10 スレッドの利用（色の変化・時計）				
	11 スレッドの利用（スレッドを利用したゲーム）				
	12 総合演習				
評価方法	日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。				
テキスト参考文献	プリントを配布する。 参考文献は適宜紹介する。				

03 年入学者		情報科学各論（中級）「データベース 1」	担当者	(春学期)長崎 等
講義目的および講義概要	本講義は表計算ソフトウェア（Excel）の基礎をマスターした学生を対象として、Excel を利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する。 高度情報化社会といわれる現代においては、昔と違い膨大な量の情報がうずまいている。そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である。その方法論的な答えの 1 つとしてデータベースがある。 データベースの基本的な考え方や利用の仕方について、比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い、学習するのが本講義の目的である。 ＜受講者への要望＞ 情報科学各論（初級－表計算入門）を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第 1 回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。		授業計画	1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習
				2 データベースについての調査
				3 データベースの基本概念
		4 並べ替え		
		5 集計		
		6 レコードの抽出		
		7 条件検索 1		
		8 条件検索 2		
		9 データベース関数		
		10 クロス集計とピボットテーブル		
		11 まとめ		
		12 実習試験		
評価方法	出席及びレポート課題、さらに実習試験によって評価します。			
テキスト参考文献	1 回目の授業で指示します。			

03 年入学者		情報科学各論（中級）「データベース 1」	担当者	(春学期)・(秋学期)松山 恵美子
講義目的および講義概要	本講義は表計算ソフト (Excel) の基礎をマスターした学生を対象とし、データベースの扱い方の基礎を学ぶ。数値データだけでなく文字データの処理方法についても学習する。膨大な量のデータの中から必要なデータを的確に抽出する力を習得する。また検索・加工・分析・発表という一連の過程からデータベースの基本的な概念を学習することを目標とする。 紙面上のデータをデジタル化してデータベースを構築する方法、またインターネット上から取得したデータをもとにデータベースを構築する方法についても学ぶ。 最後に、自ら作成したデータベースを利用して抽出や検索などのデータベース機能を使って分析を行い、その結果を Word でまとめレポートを作成する。		授業計画	1 本講義の概要および Excel の復習
				2 データベースとは何か
				3 データの取得と加工
				4 並べ替え
				5 集計
				6 レコードの抽出
				7 レコードの検索
				8 クロス集計
				9 データベース作成 (1)
				10 データベース作成 (2)
				11 レポート作成 (1)
				12 レポート作成 (2)
	評価方法	出席およびレポート課題で評価を行う。		
テキスト参考文献	「Windows による情報活用」 共立出版			

03 年入学者		情報科学各論（中級）「データベース 2」		担当者	(秋学期)長崎 等
講義目的および講義概要	本講義は「データベース 1」を履修済みの学生を対象として、Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。 Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、グループごとに与えられた要求をもとにデータベースの設計及び作成をおこなってもらう。グループ単位での演習を通じて、データベースの概念や設計に対する理解を深める。 <受講者への要望> 情報科学各論（中級）「データベース 1」を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第 1 回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。			授業計画	1 データベースの概念と機能
					2 Access の基本操作
					3 テーブル
					4 テーブルと結合
					6 クエリー (1)
					6 クエリー (2)
					7 グループによるテーブル設計 1 (ハイレベルエンティティ分析)
					8 グループによるテーブル設計 2 (関係データ分析)
					9 グループによるテーブル設計 3 (テーブル作成)
					10 グループによるクエリ設計 1 (外部スキーマの設計)
					11 グループによるクエリ設計 1 (クエリの作成)
					12 グループによるプレゼンテーション
評価方法	出席及びレポート課題によって評価します。				
テキスト参考文献	30H で理解できるアクセス 2000, 実教出版 図解雑学 データベース, ナツメ出版				

03 年入学者		情報科学各論（中級）「プログラミング論 1」	担当者	(春学期)呉 浩東
講義目的および講義概要	コンピュータで問題を解決するには、プログラムを書かなくてはなりません。本講義では、プログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説します。プログラミングのノウハウや方法などを理解することを目指します。 初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語とオペレーティングシステムについて概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic を用いてプログラミングの設計手順や方法、およびプログラミング言語の構造、さらに基本的なプログラムの仕組みなどを学びます。いくつかのプログラムの設計について講義と実習を行います。		1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2 プログラミング言語とオペレーティングシステム 3 開発ツールとしての Visual Basic Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ 4 Visual Basic の基本操作 コントロール配置、プロパティ設定、コーディング 5 簡単なプログラムの作成 データ型、演算子、プロパティの値の取得と演算 6 選択構造をもつプログラムの作成 (1) 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 7 選択構造を持つプログラムの作成 (2) 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 8 繰り返しあるプログラムの作成 ループ構造とその応用 9 配列とコントロール配列 一次元配列、二次元配列、コントロール配列 10 ファイル操作 (1) シーケンシャルアクセス：データの読み書き 11 ファイル操作 (2) ランダムファイルとランダムアクセス 12 総合練習 アプリケーションを試作する	
評価方法	前期の定期試験と、2～3 回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。			
テキスト参考文献	(1) 最初の講義で指示する。 (2) 必要な資料をファイルで配布する。			

03 年入学者		情報科学各論（中級）「プログラミング論 2」	担当者	(秋学期)呉 浩東
講義目的および講義概要	プログラミング技術を上達させるために、系統的に異なる様々な視点でのアルゴリズム (algorithms) 学習が効果的です。そのため、本講義はコンピュータのプログラミングで使われるデータ構造とアルゴリズムについて重点的に概説します。本講義では受講者に基本的なデータ構造とアルゴリズムをわかりやすく説明し、プログラミング能力をさらに上達することに目指します。初めに、プログラミングの設計に重要であるデータ構造とアルゴリズムの概念を概説します。さらに、データ構造を細かく分析する上、さまざまな例を用いてデータ構造の定義から使い方までを説明し、演習を行います。また、データ構造をアルゴリズムに応用し、プログラミングに特によく使うアルゴリズムを講義と演習しながら学びます。		1 なぜデータ構造とアルゴリズムが重要なのか？ データの記録と表現、プログラミングのツール 2 アルゴリズムの基礎 アルゴリズムの基本的な考え方 3 基本的なデータ構造 スタックとリスト 4 探索 二分探索、併合、逐次探索と番兵 5 ソート 選択ソート、挿入ソート 6 文字列処理 文字列の照合、文字列の置き換え 7 再帰というプログラミング手法 再帰とは、再帰の簡単な例 8 木構造 木と二分探索木、二分探索木のさまざまな表現 9 知的データベースの設計 10 さまざまなグラフィックスの処理 11 アプリケーションの開発 (1) 実習 (1)：課題の説明と作成 12 アプリケーションの開発 (2) 実習 (2)：課題設計のスキルと方法の解説	
評価方法	定期試験と、2～3 回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。			
テキスト参考文献	(1) 最初の講義で指示する (2) 随時必要な資料を配布する			

03 年入学者	経済原論 a	担当者	(春学期)阿部 正浩
---------	--------	-----	------------

講義目的および講義概要	講義の目標 「経済学の考え方とは何かから始め、経済学をツールとして「現代社会の問題をどのように分析すればよいのか」まで理解できるようにする。 講義概要 テキストの内容に沿って講義を行なう。なお、ほとんど毎回課題を出すので、それを自習すること。二回に一回の割合で課題の提出をしてもらう。詳細については一回目の講義で説明する。	授業計画	1 この授業のすすめ方
			2 経済学の考え方
			3 取引と貿易
			4 需要と供給と価格
			5 予備日
			6 需要・供給分析の応用（その１）
			7 需要・供給分析の応用（その２）
			8 時間とリスク(その１)
			9 時間とリスク（その２）
			10 公共部門（その１）
			11 公共部門（その２）
			12 予備日
評価方法	レポートと期末テスト		
テキスト参考文獻	「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ（東洋経済新報社）		

03 年入学者	経済原論 b	担当者	(秋学期)阿部 正浩
---------	--------	-----	------------

講義目的および講義概要	講義の目標 「経済学の考え方とは何かから始め、経済学をツールとして「現代社会の問題をどのように分析すればよいのか」まで理解できるようにする。 講義概要 テキストの内容に沿って講義を行なう。なお、ほとんど毎回課題を出すので、それを自習すること。二回に一回の割合で課題の提出をしてもらう。詳細については一回目の講義で説明する。	授業計画	1 GNP とは（その１）
			2 GNP とは（その２）
			3 マクロ経済学と完全雇用（その１）
			4 マクロ経済学と完全雇用（その２）
			5 経済成長(その１)
			6 経済成長（その２）
			7 失業と総需要（その１）
			8 失業と総需要
			9 インフレーション（その１）
			10 インフレーション（その２）
			11 まとめ
			12 予備日
文獻			
評価方法	レポートと期末テスト		
テキスト参考	「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ（東洋経済新報社）		

03 年入学者		社会心理学 a	担当者	(春学期)玉井 寛
講義目的および講義概要	本講義では個人と集団ならびに社会とのかかわりの観点から相互作用について考える。個人の行動をもたらす知覚、感情、思考といった個人心理学も視野に入れながら他者との影響や環境との相互作用から個人の態度や行動が変化する様子を考えてゆく。社会的な環境にある個人はその文化に規定されるが、そうした個人と社会、個人と集団、文化と態度、社会と集団などの相互関係や影響の過程などのテーマについても考察する。考察テーマは身近なものを取り上げたい。		授業計画	1 社会心理学への導入 前期授業の案内
	履修条件：秋学期と連動した内容で講義を進めます。従って、本学期では社会心理学の領域をすべて網羅していませんので、秋学期も合わせて受講することを条件とします。			2 社会的行動の基礎 行動の動機
評価方法	試験結果、レポートと出席回数を加味します	3 社会のなかの個人 人の理解—1		
		4 社会のなかの個人 人の理解—2		
テキスト参考文献	授業の中で随時紹介します	5 他者との影響 さまざまな見方—1		
		6 他者との影響 さまざまな見方—2		
		7 相互作用 協力と対立—1		
		8 相互作用 協力と対立—2		
		9 態度変容 説得とメディア—1		
		10 態度変容 説得とメディア—2		
		11 コミュニケーション		
		12 集団とメンバー		

03 年入学者		社会心理学 b	担当者	(秋学期)玉井 寛
講義目的および講義概要	本講義では個人と集団ならびに社会とのかかわりの観点から相互作用について考える。個人の行動をもたらす知覚、感情、思考といった個人心理学も視野に入れながら他者との影響や環境との相互作用から個人の態度や行動が変化する様子を考えてゆく。 社会生活上における具体的な事象を組織、集団や群衆行動や、社会病理といった観点からとりあげ、さらに文化と適応を国際化社会に生きる現代の様相を考える。最後に近代化した社会での孤独と不安について考察しい。 履修条件：春学期と連動した内容で講義を進めます。従って、本学期では社会心理学の領域をすべて網羅していませんので、春学期も合わせて受講することを条件とします。		授業計画	1 社会生活 世論とマスコミ—1
		2 社会生活 世論とマスコミ—2		
	3 組織、集団 組織と心理—1			
	4 組織、集団 組織と心理—2			
	5 群衆行動—1 流言と群集			
	6 群衆行動—2 群衆制御			
	7 社会病理—1 ストレス			
	8 社会病理—2 社会不安			
	9 文化と適応—1 異文化適応			
	10 文化と適応—2 ボーダーレス社会			
	11 現代人の心理 孤独と不安			
	12 社会、文化、個人 社会心理学まとめ			
評価方法	試験結果、レポートと出席回数を加味します			
スト参考文献	授業の中で随時紹介します			